

青森県獣医師会報

No.181

2020

目 次

〔新年のごあいさつ〕

公益社団法人 青森県獣医師会	会長	小山田富弥	1
青森県農林水産部	畜産課長	牧野 仁	3
青森県健康福祉部	保健衛生課長	原田 邦弘	4
北里大学獣医学部	北里大学副学長	高井 伸二	5

〔講座〕

令和元年度東北地区獣医師大会及び獣医学術東北 地区学会概要報告	事務局	6
日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事 ……渡部 巖（青森支部獣医師会・ 青森家畜保健衛生所）		7
日本小動物獣医学会東北地区学会幹事 ……伊藤 直之（三八支部獣医師会・ 北里大学獣医学部）		8
日本獣医公衆衛生学会東北地区学会幹事 ……佐々木 誠（上十三支部獣医師会・ 十和田食肉衛生検査所）		9

〔資料〕

浅虫水族館ペンギン相関図 ……青森県営浅虫水族館	加藤 愛	10
私の睥島探検記(3)……上十三支部	武藤顕一郎	13
AMR(薬剤耐性菌)対策臨床セミナー in 青森に 参加して……青森支部	渋谷 憲司	15
2019動物感謝デーinJAPAN “World Veterinary Day”に参加しました	事務局	18

〔臨床ノート〕

240号	毛芽腫により断脚を行ったウサギの1例	20
241号	頸部髄膜腫切断後 放射線治療を実施した犬の1例	22

〔会員だより〕

台風をものともせず、ゴルフコンペ開催!! ……青森支部	成田 憲雄	24
--------------------------------	-------	----

〔新入会員紹介〕

新たに入会された公務員獣医師を紹介します		24
----------------------	--	----

〔支部だより〕

秋の動物ふれあいフェスティバル2019 いやし・いやされ元気に長生き 青森支部 吉田 繁成（青森県動物愛護センター）		25
西北支部獣医師会動物愛護フェスティバルに参加して ……西北支部	田中 慎一	28
令和元年度犬猫慰霊祭 ……西北支部	事務局 小山内	29
上十三支部獣医師会 動物慰霊祭が開催されました ……上十三支部	事務局 柳沢	30
令和元年度犬猫供養祭 ……下北支部	事務局 江刺家	31
令和元年度産業動物・飼養管理等合同研修会 ……下北支部	事務局 江刺家	32

〔事務局だより〕		33
----------	--	----

〔編集後記〕		35
--------	--	----



令和2年1月1日

公益社団法人 青森県獣医師会

福岡宣言

人類は、地球上の全ての生命に配慮し、地球環境を健全に維持する責任を担っている。医師と獣医師は、科学的知識を持ち、専門的訓練を受け、法に定められた義務を遂行するとともに、人と動物の健康と環境の維持に係る幅広い活動分野において業務に携わる機会と責任を有している。

2012年10月、世界獣医師会と世界医師会は、“Global Health”の向上のため、また、人と動物の共通感染症への対応、責任ある抗菌剤の使用、教育、臨床及び公衆衛生に係る協力体制を強化するため、両者が連携し、一体となって取り組むことを合意し、覚書を取り交わした。

2013年11月、日本医師会と日本獣医師会は、健康で安全な社会を構築するため、医療及び獣医療の発展に関する学術情報を共有し、連携・共同することを同意し、協定書を取り交わした。更に、日本医師会と日本獣医師会は、2011年3月に発生した東日本大震災における教訓を踏まえ、感染症、自然災害などの危機に対し備えることは勿論、医師と獣医師との連携の強化がいかに大切であるかという点についても意見の一致を見た。この協定書締結は、日本全国の地域医師会と地方獣医師会においても達成された。

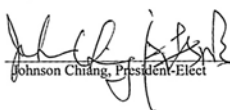
2016年11月、世界獣医師会、世界医師会、日本医師会、日本獣医師会の4者は、2015年、スペインのマドリッドで開催された第1回“One Health”に関する国際会議に続いて、第2回目の国際会議を日本で開催した。

医師と獣医師は、世界各地からこの福岡の地に集い、人と動物の共通感染症、薬剤耐性対策等を含む“One Health”に関する重要な課題について情報交換と有効な対策の検討を行い、評価すべき成果を収めた。

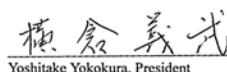
我々は本会議の成果を踏まえ、“One Health”の概念を検証し、認識する段階から、“One Health”の概念に基づき行動し、実践する段階に進むことを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 医師と獣医師は、人と動物の共通感染症予防のための情報交換を促進し、協力関係を強化すると共に、その研究体制の整備に向け、一層の連携・協力を図る。
2. 医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する。
3. 医師と獣医師は、“One Health”の概念の理解と実践を含む医学教育および獣医学教育の改善・整備を図る活動を支援する。
4. 医師と獣医師は、健康で安全な社会の構築に係る全ての課題解決のために両者の交流を促進し、協力関係を強化する。

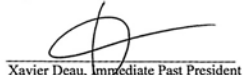
World Veterinary Association
Representative


Johnson Chiang, President-Elect

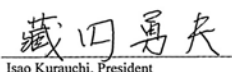
Japan Medical Association
Representative


Yoshitake Yokokura, President

World Medical Association
Representative


Xavier Deau, Immediate Past President

Japan Veterinary Medical Association
Representative


Isao Kurauchi, President



平成28年11月11日福岡県北九州市において調印。
写真左から、藏内勇夫 日本獣医師会会長、ジョンソン・チャン 世界獣医師会次期会長、ザビエル・ドゥー 世界医師会元会長、横倉義武 日本医師会会長。



新年のご挨拶

公益社団法人 青森県獣医師会

会 長 小山田 富 弥

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかに新年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。本年も会員の皆様が健康でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

昨年はラグビーワールドカップで日本代表がベスト8を勝ち取り、日本中が歓喜の渦につつまれ、多くの勇気と活力をもらいました。今年は天皇陛下の生まれた年でもある子年であり、子年は繁栄・成長・結実の年ともいわれています。東京オリンピック・パラリンピックも開催され、様々な国から多くの外国人が訪れ、人々の交流が活発となり、経済も活性化し、ひいては人口増加に転ずることを期待したいと思います。

さて、本会の主要事業である狂犬病予防注射事業では、人口減少や飼養頭数が犬の減少及び猫の増加へ変化していること等により、各支部ともに注射頭数が減少しています。狂犬病は、我が国では1958年以降、国内で感染した事例はありませんが、海外では毎年約59,000人以上の狂犬病患者が死亡しており、多くの国で犬、猫のほか、キツネ等の野生動物で発生しています。2013年には近隣の清浄国とされていた台湾において野生イタチアナグマの狂犬病が発生し、咬まれた飼犬（子犬）が狂犬病になるなど、グローバル化による侵入リスクが年々高まっています。

今後も、青森県動物愛護センターや各市町村との連携を強化しワクチン未接種犬の一掃に努めていくとともに、昨年、動物愛護管理法の改正により販売用の犬猫にマイクロチップの装着・登録が義務化されたことから、マイクロチップ装着の推進及び動物愛護思想の普及に努めたいと思います。また、近年は全国的に地震や台風、大雨等による大規模災害が相次いで発生していることから、避難所等に避難した犬や猫などのいわゆる家庭動物に対する飼養管理や健康管理の支援にも取り組んでいきたいと思っています。

家畜衛生の分野では、CSF（豚コレラ）が2018年に26年ぶりに岐阜県で発生したことを発端として中部・関東地域を中心に感染が拡大しており、飼育豚に対する豚コレラワクチンの接種が13年ぶりに始まっています。また、ASF（アフリカ豚コレラ）については中国をはじめ近隣諸国でまん延し、日本国内に持ち込まれた肉の加工品から本病の遺伝子が確認されました。口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザについても近隣諸国で発生している状況であり、これら重要な家畜伝染病が、いつ国内に侵入するか予断を許さない状態となっています。

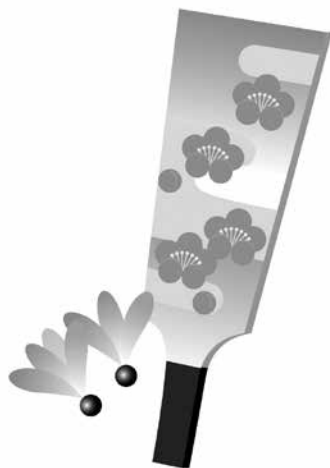
特に本県における養豚業の産出額は、リンゴ、米に次いで3番目の重要品目であり、もし県内の養豚場でCSFが発生した場合は、青森県の経済へ大きな影響を及ぼすことが予想され、人や物資の流通が益々盛んになってい

ることから、様々な家畜伝染病の侵入を未然に防ぐためにも、農場自らが「飼養衛生管理基準」を遵守し、地域ぐるみで対応することが重要であり、本会としても関係機関と連携しながら家畜衛生の向上に協力していきたいと思っています。

食鳥検査事業では、現在、年間約6千万羽を超える検査実績があり、ほぼ安定した検査羽数となっています。食鳥検査センターでは、検査精度の向上を図り、検査技術の平準化を進めています。2018年に食品衛生法等が改正され、原則としてすべての食品等事業者はHACCPに沿った衛生管理の実施が求められています。本会としては、農場から食卓までの一貫した衛生管理の向上を目指し、食鳥肉に起因する危害防止に一層努めることとしております。県家畜保健衛生所におかれましては、高病原性鳥インフルエンザ等の急性悪性伝染病がいつ発生しても対応可能な防疫体制の整備・構築とその体制を維持し防疫に万全を期すよう期待するものであります。

人と動物の共通感染症の分野では、「第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議」の福岡宣言にもあるように、動物の医療を受け持つ獣医師と人の医療を受け持つ医師とが緊密な連携を保つことが重要です。日本の医療現場では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌や基質拡張型 β ラクタマーゼ産生など薬剤耐性（AMR）が大きな問題となっています。本会としても家畜や愛玩動物を含め抗菌剤の適正・慎重使用の徹底を啓発し、安全で安心な畜産物の供給に寄与していきたいと考えています。

我々獣医師は、小動物臨床や産業動物診療のほか動物由来のヒトの感染症対策、食の安全性と安定供給、薬剤耐性菌対策など専門職として果たす社会的役割が広がり続けています。人と動物が共存して生きていける社会を目指すためにも学校教育分野への活動や公益活動を発展させていき、獣医師の社会的地位、認知度を高めたいと考えていますので、今後とも本会へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。





新年の御挨拶

青森県農林水産部 畜産課長

牧 野 仁

新年あけましておめでとうございます。

小山田会長をはじめ会員の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

公益社団法人青森県獣医師会におかれましては、日頃から家畜衛生業務の推進を通じて、本県の畜産振興に格段の御理解と御協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

最近の畜産を取り巻く情勢は、人口減少・少子高齢化に伴う労働力不足による飼養戸数の減少に加え、TPP11や日米貿易協定など、経済のグローバル化が進む中、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本の優れた農林水産物を世界に発信する大きなチャンスでもあります。

県では、畜産の持続的な振興に向けて、生産体制の整備、担い手の育成や労働力確保対策を講じるとともに、消費者が求める安全・安心で良質な畜産物生産のため、農場HACCPやJGAPの普及に取り組んでいます。

さて、家畜衛生の分野に目を向けますと、一昨年9月、国内で発生したCSF（豚コレラ）は、感染が拡大し、昨年9月には埼玉県でも感染が確認されたほか関東地域で感染した野生イノシシが相次いで確認されているなど、依然として予断を許さない状況が続いています。

県では、CSFなどの発生防止のため、独立行政法人農畜産業振興機構を活用して、野生動物の侵入防止柵を設置する場合に費用の一部を支援する事業を創設するとともに、万が一の発生にも対応できるよう、昨年9月に特定家畜伝染病対策マニュアルを新たに策定したほか、防疫作業に従事する県職員の動員計画も見直すなど、対策を強化しています。

また、今シーズンも国内の野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザが確認されており、農場での発生を未然に防止するために、家畜保健衛生所が農場を巡回して指導を行っているところですが、日頃、生産農場を御指導いただいている会員の皆様におかれましても、農場に対する適切な飼養衛生管理の御指導をよろしくお願いします。

このほか、県では、県獣医師職員を安定的に確保するため、「あおり食産業を守る獣医師確保緊急対策事業」に取り組んでおり、中学生や高校生に獣医師の魅力を伝える出前講座や大学生との交流会でのPR活動をはじめ、大学生や高校生を対象とした修学資金の貸与やインターンシップを開催して獣医師職員の業務体験を行うなど、家畜の健康や食品の安全を守る獣医師の確保対策に重点的に取り組んでいます。

本県農業の基幹部門である畜産業の更なる発展のためには、家畜伝染病を予防すること、そして、万が一発生した場合には、関係者一丸となった迅速な初動防疫対応が極めて重要です。そのためには、豊富な知識と経験、高度な技術を有する貴会会員の皆様との連携が重要と考えておりますので、引き続き、本県の家畜衛生の推進と畜産業の発展に御尽力くださるようお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年の御挨拶

青森県健康福祉部 保健衛生課長

原 田 邦 弘

公益社団法人青森県獣医師会の会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃から本県の動物愛護管理、食品衛生、食肉衛生及び感染症対策行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、動物愛護管理行政につきましては、県は、平成18年に開設した青森県動物愛護センターを拠点に貴会と連携し、広く県民に動物愛護の思想と適正飼養が普及するよう動物ふれあい活動等に取り組んできました。その結果、動物愛護センター開設当初に比べて放浪犬の捕獲頭数や飼い犬・飼い猫の引取頭数が大きく減少する等の成果が見られています。

しかしながら、致死処分される動物の過半を占める仔猫対策や災害発生時のペットの同行避難態勢の確保等の課題については、更なる対策を進めていく必要を痛感しております。県としましては、「青森県動物愛護推進協議会」を設置し、貴会にも御参画いただきながら北里大学や動物愛護管理に関係する団体等との連携を深めるほか、民間企業と動物愛護に関する連携協定を締結する等の取組を推進しているところです。貴会におかれましても、引き続きのご理解とご協力をお願いします。

食品衛生行政につきましては、一昨年6月に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が公布され、令和3年6月までに原則全ての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理を実施することになりました。県では、HACCPの普及推進及び食品の安全性の更なる向上のため、業界団体を交えた連絡会議や食品等事業者を対象としたセミナーなどにより関係事業者の取組を積極的に支援して参ります。

食肉衛生行政につきまして、貴会には指定検査機関として平成15年から長きにわたり食鳥検査に御尽力賜っておりますことに改めてお礼を申し上げます。

一昨年、26年ぶりに国内発生しましたCSFは、関東地方まで感染地域を広げており、本県でも予断を許さない状況が続いています。県では、厳正なと畜検査を実施するとともに、万が一の発生時に迅速かつ適切に対応できるよう対策を徹底しているところです。

また、国では、農畜水産物の輸出拡大を推進しており、HACCPなど相手国の衛生要件を満たす食肉の供給が求められています。県では、と畜場及び食鳥処理場におけるHACCPの導入及び適切な運用について指導助言しているところですが、特に食鳥処理場に対する衛生指導について、貴会の御理解と御協力をお願いします。

感染症対策行政につきましては、世界中で新興・再興感染症をはじめとする様々な感染症が猛威をふるっています。国内においても首都圏を中心として風しんの流行が大きな問題となっており、県内でも昨年6年ぶりに風しんの発生が確認されました。ジカ熱やデング熱、中東呼吸器症候群（MERS）などの動物由来感染症対策はもとより、薬剤耐性菌については公衆衛生のみならず産業動物や小動物の臨床分野とも密接に関係しているため、専門的な知識を有する獣医師の必要性がより増しているところです。県としましては、今後も各種感染症対策を推進し、公衆衛生の向上に努めて参りたいと考えております。

結びに、本年が会員の皆様にとって、幸多き年になりますよう、益々の御発展を御祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

北里大学副学長（獣医学部長）

高 井 伸 二

青森県獣医師会・会員の皆様あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに、新しい年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、平成から令和となった昨年も、大きな災害（九州の集中豪雨、台風19号など）が日本列島の各地を襲い、未だ復旧の目処も立っていない地域もあるようです。獣医療・獣医事・家畜衛生・畜産に関連する領域においても、様々な出来事がございました。

その吉報の一つは、動物看護の専門職として社会に貢献する動物看護師を国家資格とする「愛玩動物看護師法」が、令和元年6月21日に第198回国会にて成立しました。これにより、早ければ令和5（2023）年にも第1回目の国家試験が実施され、国家資格「愛玩動物看護師」が誕生するとのことです。飼い主が求める獣医療の内容が高度化・多様化、動物を介在した介護や福祉、疾病治療や機能回復、教育に関する諸活動など、単なる愛玩動物としての飼養に留まらず、その社会的な意義も増しています。これらの諸課題に対応するためには獣医師と動物看護師のチーム獣医療提供体制の整備や動物看護師によるしつけ等の活動の充実が求められています。本法律には、愛玩動物を対象とした動物看護師の資質向上・業務の適正を図ることを目的に、愛玩動物看護師の国家資格が定められました。北里大学獣医学部においてもチーム獣医療体制の人材養成を含めた検討が始まりました。

一昨年は中国にアフリカ豚コレラが進入し、昨年は中国全土に拡大し、モンゴル、北朝鮮、韓国、そして、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーと東南アジアに進入してしまいました。昨年9月に26年ぶりに発生した豚コレラは岐阜県から始まり、近隣の愛知、三重、滋賀、福井、石川、富山、長野、埼玉と野生イノシシ及び養豚場での発生が拡大し、豚へのワクチン接種が始まりました。迷走する（？）農水省はコレラという名称の風評被害を避けるために、Classical Swine Fever（CSF）に名称統一することを発表しました。青森空港からはソウル（韓国）、天津（中国）、台北（台湾）との直行便があり、アフリカ豚コレラ、CSF、FMDなど監視伝染病が何時進入してもおかしくない状況にあり、水際防疫の重要性が実感され、ご苦労されているかと思います。

さて、北里大学獣医学部は青森県・青森県獣医師会の皆様と協力・連携しながら、獣医師の幅広い活動分野において頑張っている所存でございます。2020年（令和2年）が青森県獣医会・会員の皆様にとって、素晴らしい年となりますことを心から御祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

令和元年度東北地区獣医師大会及び獣医学術東北地区学会概要報告

事務局

令和元年度東北地区獣医師大会及び獣医学術東北地区学会が10月10日（木曜日）・11日（金曜日）に、福島県郡山市の郡山ビューホテルアネックスにおいて開催されました。

初めに、大会長である福島県獣医師会の浦山良雄会長と日本獣医師会の藏内勇夫会長より挨拶があり、次に学会褒賞の授与が行われました。祝辞は、農林水産省消費・安全局長、環境省自然環境局長、福島県知事、郡山市長からいただきました。



大会会場

その後の議事では、仙台市獣医師会から「愛玩動物看護師法の成立を受け、現場に寄り添った施行細則の制定に向けて」と、秋田県獣医師会から「産業動物臨床獣医師の確保対策について」の提案がありました。秋田県獣医師会の提案には、結婚や子育て等のライフイベントに応じたワークライフバランスの実現を支援して欲しい旨の意見がありました。審議の上、満場一致で日本獣医師会に要望することが承認されました。

議事終了後には、演芸家の江戸家小猫先生をお迎えして、「気づきを築く面白さ」と題して市民公開特別講演が開催されました。講演中はウグイスやホトトギス、ヌー等様々な動物ものまね芸も披露され、会場からは何度も笑いと拍手が起きていました。

また、教育講演として、日本獣医公衆衛生学会長

の丸山総一先生から「わが国の野生動物が保有する Bartonella」について、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課課長補佐の中元哲也先生から「我が国における獣医師倫理の現状及び課題」について講演がありました。



講演中の丸山総一学会長

最後に次回の主催者である仙台市獣医師会の小野裕之会長から挨拶をいただき無事大会は終了しました。

獣医学術東北地区学会については、産業動物獣医学会は幹事で青森家畜保健衛生所の渡部巖所長から、小動物獣医学会は幹事で北里大学獣医学部の伊藤直之教授から、獣医公衆衛生学会は幹事で十和田食肉衛生検査所の佐々木誠所長から、学会ごとに次ページ以降報告があります。

なお、今大会への参加者は238名、学会参加者は291名で、そのうち本県からの大会参加者は17名、学会参加者は22名でした。

来年度は仙台市において10月13日（火曜日）・14日（水曜日）に開催されますので、是非ご参加ください。

また、この度の台風19号に際し、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみを申し上げます。そして被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

令和元年度獣医学術東北地区学会・日本産業動物獣医学会（東北地区）の概要

日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事

渡部 巖（青森支部獣医師会・青森家畜保健衛生所）

令和元年度獣医学術東北地区学会・日本産業動物獣医学会（東北地区）が、令和元年10月10日～11日の両日、公益社団法人福島県獣医師会の主催のもと、郡山市の郡山ビューホテルアネックスにおいて盛大に開催されました。

今年度の産業動物学会の発表演題数は、29題で昨年より5題少ない発表がありました。所属別には、青森県4題、岩手県7題、秋田県4題、宮城県5題、山形県3題、福島県6題で畜種別では、牛21題、馬1題、豚2題、鶏2題、ミツバチ1題、その他2題でした。

内容として、臨床症例や遺伝子診断の研究、生産農場への衛生管理指導に加え肉用牛生産振興など多岐に亘るものでした。

今回の29題の演題について、獣医学術東北地区学会選考委員による慎重な審査の結果により選出された、本年度の各賞受賞演題は次のとおりでした。

○獣医学術東北地区学会長賞

演 題：牛の呼吸器病及び下痢に関連する病原体を検出するマルチプレックスrRT-PCRの野外症例への応用と検出状況

発表者：岩手中央家畜保健衛生所 五嶋祐介ほか

演 題：統計的解析を用いた品種差における地方病性牛白血病診断手法の有用性の検討

発表者：宮城県仙台家畜保健衛生所

佐久間晶子ほか

○東北獣医師会連合会長賞

演 題：高血糖を呈したホルスタイン種子牛にみられた脾臓の発生異常

発表者：宮城県仙台家畜保健衛生所

板橋知子ほか

○獣医学術東北地区学会奨励賞

演 題：離乳を契機にカタプレキシーが軽減した黒毛和種牛の1例

発表者：北里大学 加古翔悟ほか



○三八支部 谷地村さん



○青森支部 清水さん

令和元年度獣医学術東北地区学会・日本小動物獣医学会（東北地区）の概要

日本小動物獣医学会東北地区学会幹事

伊藤 直之（三八支部獣医師会・北里大学獣医学部）

令和元年10月11日、台風19号の接近・上陸が危惧される中、福島県獣医師会の担当で、郡山ビューホテルアネックスを会場として、令和元年度の日本小動物獣医学会（東北地区）が開催されました。

例年通り、地区会長である岩手大学の佐藤れえ子先生から開会の挨拶があり、引き続き奨励賞の授与式が行われた後、演題の発表に移りました。

今年度の発表演題数は、昨年度とほぼ同数の34題であり、青森県からの演題は7題でした。なお、各獣医師会別の発表演題数は、下記の通りでした。

青森県	7題	岩手県	11題
秋田県	2題	宮城県	6題
仙台市	2題	福島県	6題

青森県からの発表は、次の7演題です。

- ・脈絡網膜炎が猫トキソプラズマ症診断の一助となった1例
大高裕也 ほか（北里大学）
- ・犬の特発性慢性角膜上皮欠損症に対し滅菌綿棒をもちいた上皮デブリードメント処置を繰り返し実施した際の治癒率に関する検討
喜多瑞樹 ほか（北里大学）
- ・皮膚、眼瞼腫瘤に対して半導体レーザー治療をした11例
竹原律郎 ほか（ふれあい動物病院）
- ・犬におけるバソプレッシンの骨髄内投与による薬理作用と穿刺部位の検討
松井琢真 ほか（北里大学）
- ・犬におけるロクロニウム投与が腹腔鏡気腹下の腹腔内体積と視認性に及ぼす影響
中野正杜 ほか（北里大学）
- ・猫におけるv-gelの使用が腹腔鏡気腹下での呼吸動態に及ぼす影響
佐藤文恒 ほか（北里大学）
- ・イヌの乳腺腫瘍片側全摘出術におけるブトルファノール持続投与による鎮痛効果
堀田大揮 ほか（北里大学）

講演終了後、地区学会幹事による各賞の選考委員会が開催され、厳正な審査の結果、受賞演題が以下のように決定されました。

東北地区学会長賞（2題）

日本小動物獣医学会（東北）

- ・犬の前立腺移行上皮癌の転移診断にMRI DWIBS法を用いた1例

小山英志 ほか

（仙台獣医師会総合どうぶつ病院・仙台市）

- ・ウサギの粘液性腸症の治療法の検討

澤田浩気（ラビッツ動物病院・福島県）

東北獣医師会連合会長賞

日本小動物獣医学会（東北）

- ・頸部に発生した巨大髄膜腫の犬の一例

齊田はるか ほか（岩手大学）

奨励賞

日本小動物獣医学会（東北）

- ・犬の特発性慢性角膜上皮欠損症に対し滅菌綿棒をもちいた上皮デブリードメント処置を繰り返し実施した際の治癒率に関する検討

喜多瑞樹 ほか（北里大学）

学会は質疑応答が活発に交わされ、充実していた一方で、演者、質問者ともに消化不良のまま制限時間を超えてしまう演題が多く、幹事会では質疑応答時間の延長について、今後の検討課題として論議されました。また、今年も発表される先生（施設）と質問者がある程度、固定化されているように感じました。多くの先生方が参加し、様々な論議がなされることで知識や技術の向上が得られるものと考えられますので、より多くの先生方の参加が望まれます。

終わりに、学会の開始前にだれもが感じていた台風19号に対する一抹の不安が、奇しくも開催県である福島県で、未曾有の被害として現実のものになってしまいました。犠牲となられた方々のご冥福を祈ると同時に、被災地の一日も早い復興を願います。

令和元年度獣医学術東北地区学会・日本獣医公衆衛生学会（東北地区）の概要

日本獣医公衆衛生学会東北地区学会幹事

佐々木 誠（上十三支部獣医師会・十和田食肉衛生検査所）

本学会は、令和元年10月11日に郡山市の郡山ビューホテルアネックスにおいて盛大に開催されました。

開会の冒頭に開かれた令和元年度獣医学術東北地区学会実行委員会終了後、産業動物、小動物、公衆衛生の各学会に分かれ、当公衆衛生学会では、上野東北地区学会長の挨拶、平成30年度獣医学術東北地区学会奨励賞の授与（山中麻起子・十和田食肉衛生検）、丸山総一日本獣医公衆衛生学会長の挨拶と続いた後、各県から16題の演題が発表されました。

演題内容は食品衛生や食肉衛生関係、感染症関係から動物愛護関係まで幅広いものとなり、会場からも活発な質疑が行われました。

なお、発表演題数は以下のとおりで、本県からは5題の演題が発表されました。

青森県	5題	岩手県	4題
秋田県	3題	山形県	1題
福島県	3題		

演題発表終了後に審査会が行われ、審査員9名の採点により次のとおり決定しました。

○ 東北地区学会長賞

腸管出血性大腸菌のO抗原遺伝子検出のためのMultiplex PCR法
郡山市食肉衛生検 三ヶ島壮士ほか

○ 東北地区獣医師会連合会長賞

と畜場に搬入された豚からのE型肝炎ウイルスRNAの検出

郡山市食肉衛生検 慶野昌明ほか

○ 獣医学術東北地区学会奨励賞

と畜場で認められた牛白血病の発生状況調査
十和田食肉衛生検 立崎元ほか

なお、今回の16演題の中には行政機関である十和田食肉衛生検査所と公益社団法人青森県獣医師会食鳥検査センターとの業務連携に関する発表もありました。行政機関と公益社団法人とが連携して食鳥処理場に対する衛生指導、助言を効率的に行うという新しい取組に対する効果について報告されました。残念ながら入賞とはなりませんでした。県産食鳥肉の衛生レベル向上に向けて新風を吹き込む取組みとして注目されました。

最後に、日常業務が多忙の中、御協力いただいた皆様に感謝するとともに、今後とも本県から多くの発表がなされるよう、引き続き、会員の皆様の御協力をお願い申し上げます。

浅虫水族館ペンギン相関図

青森県営浅虫水族館 加 藤 愛

青森県営浅虫水族館では、開館翌年の1984年から4羽のフンボルトペンギンを飼育展示し始め、現在では12羽のフンボルトペンギンを飼育しています。

今回は、ペンギン飼育当初からの家系図と日々の飼育スタッフの観察をもとに現在飼育中のペンギン12羽の家族関係、夫婦関係、過去のカップルの変遷等をまとめた「ペンギン相関図」を紹介します。

当館は個体識別のために、ペンギン達の翼の付け根に色のついたリングを付けていますが、このリングの色がペンギン達の名前になっています。リングの色は1羽1羽異なっていて、生まれた子供は母親のリングの色を引き継ぐようになっています。

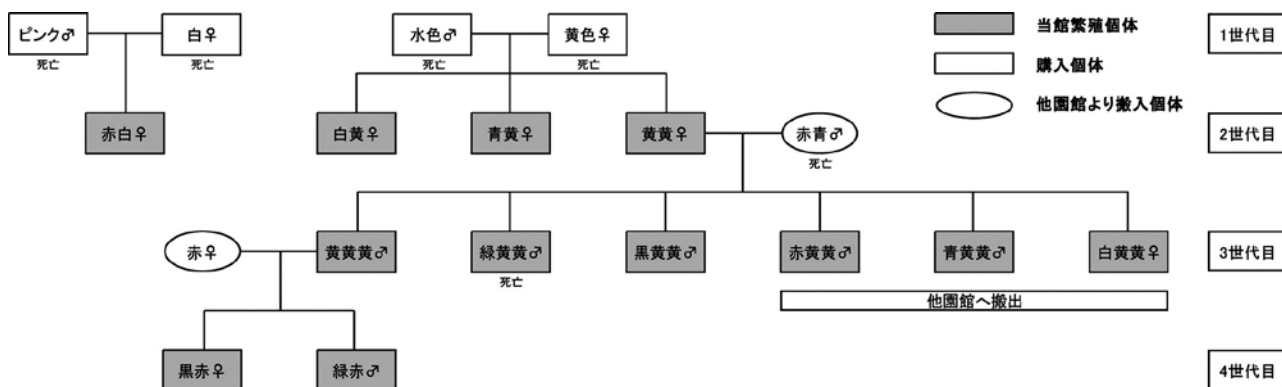
例外として東武動物公園から搬入した個体は、東武動物公園で親しまれていた愛称「ハルミ」「ハルト」のまま飼育しています。

初代飼育個体のペア（水色×黄）から繁殖が進み、現在では4世代目になっています。2世代目は、赤

青×黄黄ペアの1ペアのみではありましたが、2015年に13年ぶりの繁殖が成功しました。このペアからは、6羽が誕生しました。

同じ血縁の個体が増えてきたため、そのうちの3羽を他園館と交換することで新しい血縁を導入し、現在の展示個体は8羽が当館繁殖個体で4羽が他園館から搬入の個体となっています。2世代目にあたる赤青が2017年に死亡し、以降は3世代目の黄黄黄×赤ペアからの繁殖が進んでいます。

このペアは、2019年に初めて繁殖が成功し、当館4世代目のペンギンが誕生しました。現在このペアを含め4組のペアが形成されていますが、そのうち1組は同性ペアとなっています。「同性ペア（カップル）!？」と疑問に思われる方が多いと思います。実はペンギンの世界では同性（♂×♂、♀×♀）が疑似繁殖行動を行なうことは珍しいことではありません。



ペンギン家系図

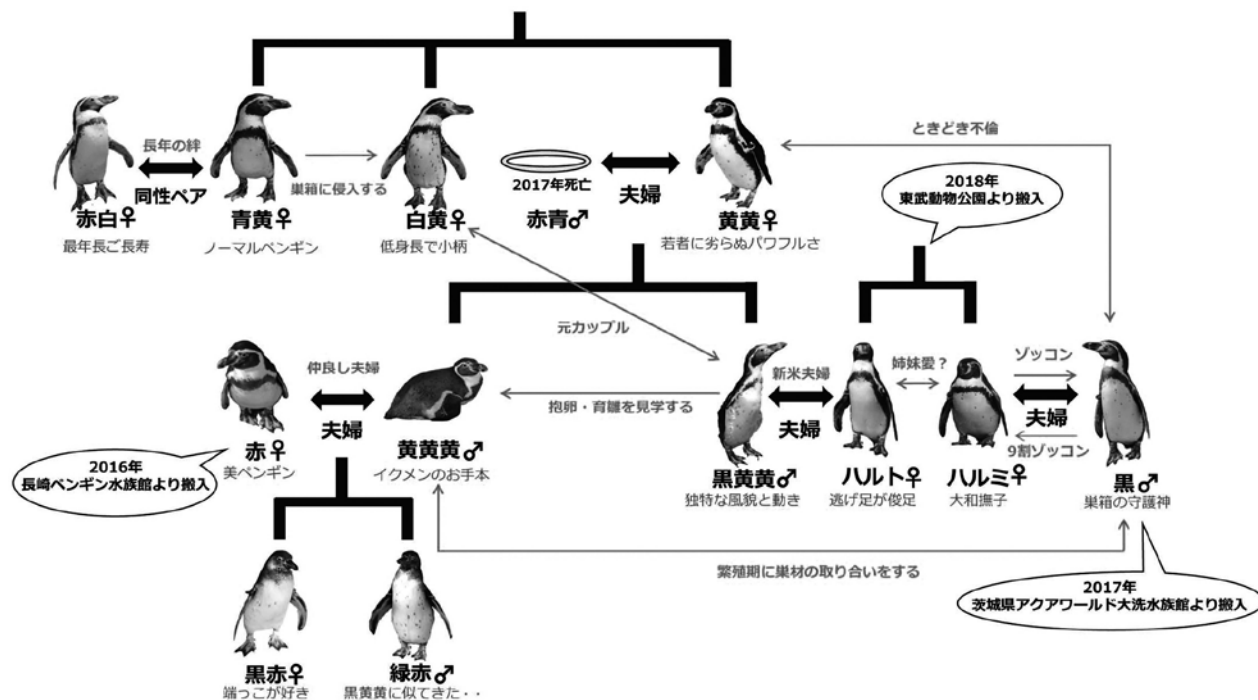
オス×オスのペアに本物の受精卵を託すと見事に雛を育て上げたという例もあります。

当館では、血縁に近い個体が多いため基本的には、他園館から搬入した個体とのペアリングを進めています。搬入した個体は、まず予備室で飼育を始め健康チェックと手元から安定して餌を摂餌してくれるようになるまで様子を見ます。その際、ペアリング候補の個体も一緒に予備室で飼育することでお見合いを行います。初めは攻撃したり、距離をとることが多いのですが、1か月程で寄り添い合って寝たり、羽づくろいをし合ったりする姿が見られるようになります。今までのお見合い成功率は100%を誇っています。



ペンギン達は、1度ペアになると生涯寄り添い合うと言われていたますが、時には少々複雑な関係が生まれることもあります。現在は、それ程複雑な関係は見られず円満なペアが多いようです。ペアだけで

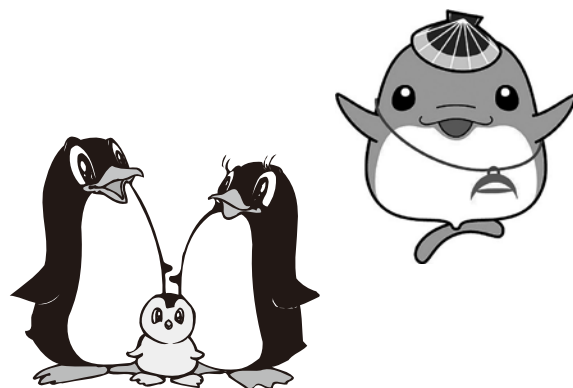
なく、それぞれの個体間の関係も観察していると興味深く、様々なドラマが生まれています。これは、短時間では気がつきにくいことが多いので、じっくり観察していただくことをオススメします。



12羽のペンギン相関図

そして、黄黄黄×赤ペアは現在抱卵中です（2019年10月末現在）。フンボルトペンギンの抱卵日数は約45日で、親鳥は交代で卵を温め、子育ても共に行います。このペアは、過去2度の失敗を経て2019年初めて繁殖が成功し2羽を育ててくれました。この時はまだ育雛の経験が浅く、雛2羽に体重差が生じたため、飼育スタッフが少し手助けをしました。今回は問題なく育て上げてくれるよう、親鳥の成長を期待しています。また、これまでペンギン達の巣箱は、観覧通路側から見えづらい位置となっており、抱卵している姿や育雛中の姿をご覧いただけなかったのですが、新たに展示プール内にライブカメラを設置し、巣箱の方向を映すことで観覧通路にあるモニターから常時ご覧いただけるようになりました。

今回抱卵中のペアの他に、繁殖を期待しているペアが2組います。ここ数年は、1ペアのみからの繁殖ですので、今後は複数のペアから新たな命が誕生することを、スタッフ一同楽しみに見守っています。



水の世界を知る楽しさがここにある



浅虫水族館

AQUARIUM ASAMUSHI

皆様のご来館をスタッフ一同お待ちしております

私の臍島探検記（3）

上十三支部 武 藤 顕一郎

1996年、和栗教授から、新しいテキストに掲載するために、ニワトリの臍島細胞の電顕像を欲しいと依頼された。少し懐かしい思いで、古いエポンプロック標本を探し出し、臍島を観察すると、臍島内に内分泌顆粒を持たない細胞の小集団が観られた。すぐく大事な所見と思われたが、翌日の実習の準備のこともあり、取り敢えず、依頼された像を撮影し、残り数枚のフィルムにその無顆粒の細胞を撮影しておいた。翌日、実習終了後に写真にして、よく見ると、その無顆粒細胞は数個が集合して管状に配列し、細胞集団の中央に管腔を形成している。管腔内には、微絨毛、隣接細胞間にはデスモゾームを備え、まさしく上皮細胞。しかし、その細胞の基底側は内分泌細胞間に細胞質突起を伸ばし、場合によっては、内分泌細胞を包み込んでいようにも見える。これは、下垂体前葉の濾胞星状細胞（folliculo-stellate cell、FSC）。FSCは下垂体前葉内にあって、管を囲む上皮様を呈し、密着管腔内には微絨毛、隣接細胞間にはデスモゾームを備え、基底側の細胞質突起は前葉細胞間に伸びて前葉細胞を囲むことも知られている。そして、FSCは前葉細胞の保護に関与し、強いストレス時には前葉細胞を取り囲む様に発達し、また前葉細胞の幹細胞になり得るとの仮説もあると、数日前の講義の準備で仕入れた新知識。再度、臍島の無顆粒細胞を見ると、前にもどこかで見ていたような気がする。まさか、と大学院生時代の修士論文の付図写真と付図には採用しなかったが、所見保留にしていた数枚の写真を見ると、同じ像があった。エ！見逃していた。いや、この細胞の所見について、見上先生に質問した際、今はその細胞の所見は必要が無いと断言され、ペンディングにしておいたもの。早速、文献を渉猟したが、臍島内の管に関する記載は無い。古いテキストに臍島内または臍島の近縁に介在導管が存在することがある、との記載はあったが、「稀に」と付記されていた。何度も写真を見直していると、この細胞集団をつくる細胞は臍臓の介在導管上皮細胞や腺胞中心細胞に類似。臍臓の外分泌部導管系が臍島内を貫通する事はあるのだろうか？しかし、元々、臍島が導管上皮由来である事を考えれば、介在導管の周囲に臍島が形成されたということであり、矛盾は無い。

運が良いとは、あの様な事を言うのかも知れない。解剖学実習室の窓ガラスに、猛禽類に追われたらしいスズメが激突して落下、瀕死の状態、鶏の臍臓の採材中に持ち込まれた、呼吸も無く、心停止の状態。一緒に臍臓を採材し、数日後、いそいそと電顕観察。驚いた事に、臍島細胞の周囲には暗調な細胞が配列し、まさしく、下垂体前葉のFSCの機能亢進状態像。さらに農場職員が保護・飼育していたイスカ（交喙または鶉、スズメ目アトリ科の小鳥）が、瀕死の状態との事で、欲しかったらどうぞと持ち込まれた。このイスカの臍島もまた同様の像を呈していた。聞くところによると、早朝、タカかチョウゲンボウみたいな猛禽類の鳴き声と羽ばたき音がしたので、もしやと思い飼育籠の所に行ってみたら、イスカが床に倒れていたとの事。運はまだ続き、その後、鶉（ウズラ）、鶇（バン、Moorhen）などが、農場職員から持ち込まれ、それらの鳥の臍臓を検索することができた。そして、これら全ての臍島に導管を認め、しかも、導管上皮は暗調を呈し、正常なニワトリのものより、その網状配列が判り易かった。

そして、運はまだ続く。解剖学実習用に搬入したニワトリが数羽余り、和栗教授から処分を依頼された。実験も自由にして良いとの事。研究室の薬品棚に、学生の卒論実験で使い残した、アロキサンとスルホニル尿素受容体作動薬であるトルブタミドがあった。哺乳類ではアロキサンは実験的糖尿病の試薬としてよく利用されるが、ニワトリではその効果は疑問視されている。早速、アロキサンを投与してみると、何と、導管上皮が暗調を呈して、インスリン細胞を囲んでいる。まるで、インスリン細胞を愛しく包む様な感じでもある。鳥類でアロキサンの効果が哺乳類程で無かったのは、これらの細胞が内分泌細胞に対して保護的に働いていたのかも知れないと痛感させられた。トルブタミド投与実験においてもほぼ同様の結果であった。

さらなる幸運がやって来た。日本獣医生命科学大学の獣医解剖学研究室の尼崎教授から、大学院博士過程で臍臓を研究したい学生を北里大学で指導して欲しい旨の電話を頂いた。尼崎先生には日頃から何かとお世話頂いているので、ありがたく受け入れるつもりではいたが、臍臓の研究に興味とはまた時機

を得たりである。長竿淳氏、学位取得後、研究職、小動物臨床分野を経て、現在は北里大学獣医学部動物資源科学科の講師である。

大学は意外と会議が多く、少なからずの委員会に出席しなければならない。当時、会議の前に、今日は何の委員会かな？何でもイインカイ、どうでもイインカイ、どうすりゃイインカイのどれかな？などと発言して、事務担当者に叱られた教員がいた。研究や講義準備の時間を削がれてしまう不満を、つい愚痴ってしまったのかも知れないが、会議の準備に真面目に取り組んだ事務担当者には耳障りな言葉であったと思うし、不謹慎にも思われた。しかし、実際の所、講義、実習、専攻生の卒論指導なども、その準備を含めて、時間が足りないくらいであった。

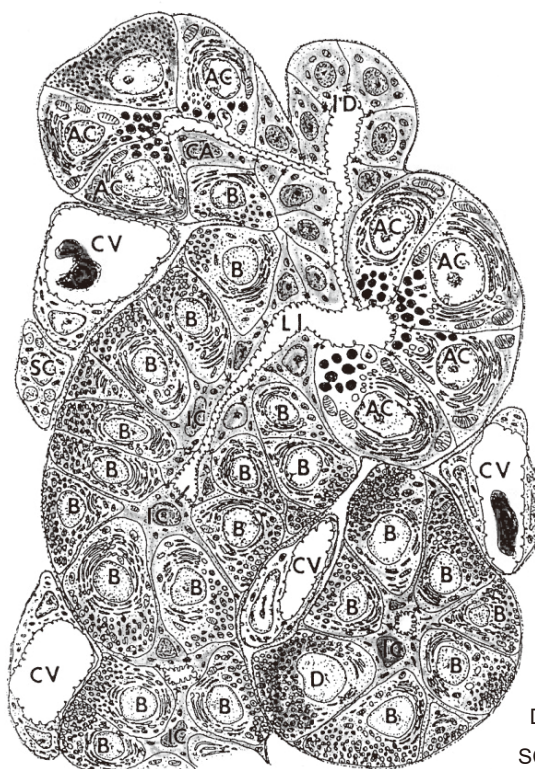
長竿氏は、私がやりたい事を率先して実験し、興味深い所見を集積してくれた。最初に、それまでの実績があるニワトリで、大学の動物実験倫理委員会に実験計画書を提出・承認を受け、試薬投与実験を始めて貰った。

Streptozotocin（ストレプトゾトシンSTZ）またはStreptozocin（ストレプトゾシン）は抗生物質の一つであるが、膵島B細胞に毒性を有し、動物実験で糖尿病作成ができる試薬として、さらにインスリンノーマの治療薬として知られる物質である。ニワトリにSTZを投与すると、今まで述べたように膵臓の

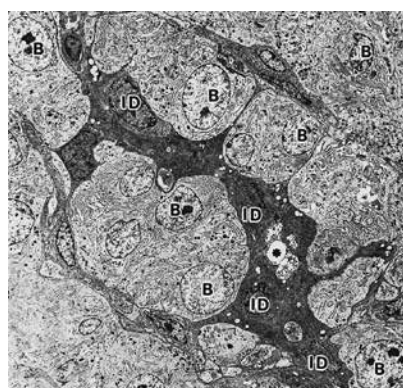
膵島を通る介在導管上皮細胞は、ライソゾームや高電子密度のデスモゾームが明瞭になり、細胞質突起を島細胞間に網目状に伸長させ膵島内分泌細胞を取り囲み、膵島内分泌細胞に対する保護的作用を示唆する。すなわち、細胞間の密着結合を強固とした介在導管上皮細胞は、その細胞質突起を伸長することにより、内分泌細胞とその侵襲因子との接触に対し、物理的な防御作用を有することを示した。

Camostat mesilate（メシル酸カモスタットCM）は合成トリプシンインヒビターで慢性膵炎の治療薬として使用されている。ニワトリにCM単独投与およびSTZ+CM重複投与を行い、膵島内介在導管上皮細胞と膵島内分泌細胞の形態学的変化について光学顕微鏡学的、電子顕微鏡学的に検討を行って貰った。CM投与によりB島は大型化することが観察された。さらにSTZ+CM重複投与を行うと小型B島の出現頻度が増し、CMによる細胞増殖効果を反映した膵島新生によるものと考えられた。この時、介在導管領域に微細構造学的に幼弱性細胞の特徴を有する小型細胞が出現し、また、Anti BrdU antibody（抗BrdU抗体）陽性所見を観察し、これらの細胞の高い細胞増殖活性と介在導管上皮細胞が膵島再生に強く関与していることを示唆する所見を得てくれた。

（つづく）



ニワトリB島と介在導管の関係



Tolbutamide 投与 ニワトリB島

B: B細胞、
ID: 介在導管、
*: 介在導管
内腔

AC: 腺房細胞
ID: 介在導管
LI: 介在導管内腔
CV: 毛細血管
CA: 腺房中心細胞
IC: 介在導管上皮細胞
B: B細胞(インスリン細胞)
D: D細胞(ソマトスタチン細胞)
SC: シュワン細胞

「AMR（薬剤耐性菌）対策臨床セミナー in 青森」に参加して

青森支部 渋谷 憲 司

1 AMRとは？

AMR（薬剤耐性菌）が増加していますが、その具体的な対策はどうすればいいのでしょうか？

AMRとは、英語Antimicrobial Resistanceの略で薬剤耐性菌のことです。AMRの問題は細菌、ウイルス、寄生虫など幅広い範囲で見られますが、近年、細菌のAMRが特に注目されています。

今やAMR対策は、世界的な問題となり、世界保健機構（WHO）では2050年には薬剤耐性による死亡者数が癌を上回ると警鐘をならしています（図1）。

抗菌薬の不適切な使用により、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあります。今から具体的な対策を講じないと大変なことになりそうです。

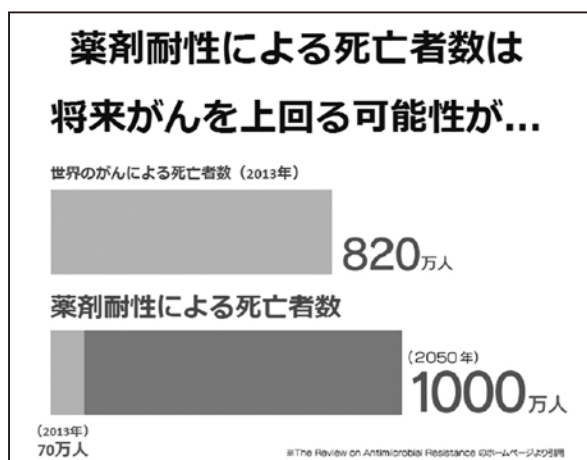


図1 死亡者数

このような背景のもと、令和元年10月12日（土）、ラ・プラス青い森（青森市）を会場として、「AMR対策臨床セミナー」が開催されました。国立国際医療研究センター病院と青森県との共催で、日本のAMR対策の第一線で活躍している有名な先生方が勢ぞろいでした。

内容は、日本の薬剤耐性の現状や抗菌薬の適正使用について、青森県内の複数の医療圏で広がった VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）の対応についてなどで、それぞれの専門の医師と看護師、

行政担当者の計6名が貴重な体験談等を交えたお話をされ、会場からは多くの質問や意見等があり、関係者にとっては今後のAMR対策に生かすために、とても勉強になるセミナーでした。

2 抗菌薬の過剰使用

抗菌薬は、人間だけではなく畜産業、水産業、農業など幅広い分野で用いられ、なかでも畜産業では、感染症の治療のみならず、発育促進の目的で飼料に混ぜて用いられています。

抗菌薬の使用量は、国別にみると世界的に重要な食肉生産国である中国、米国、ブラジルがもっとも多く、また、人の医療現場よりも畜産現場のほうが多くなってきています。

その結果、動物由来の薬剤耐性菌が、日本や欧州諸国では食肉を通じた伝播が確認されており、人間社会に多大な影響を及ぼしつつあります。

3 なぜ今、AMR対策が必要なのか？

青森県内でも、昨年、地域を担う複数の中核病院でVREの保菌者や感染症患者が確認され、その対策のために入院の受入れを制限するなどの事態にも発展し、マスコミにも大きく取り上げられ、県内でも薬剤耐性菌は広がりつつあり、積極的な取組を行わなくてはならない状況です。

WHO（世界保健機関）は、2011年に"No action today, no cure tomorrow（今日動かなければ、明日の治療はない）"として、AMR問題を世界の中で取り組むべき問題として取り上げ、さらに2015年の総会では、AMRに関するグローバル・アクション・プランを採択し、加盟各国は2年以内に薬剤耐性に関する国家行動計画を策定することになりました。

これを受け、厚生労働省では、薬剤耐性対策に関する取組について議論するとともに、2016年の「国際的に脅威となる感染症対策閣僚会議」において、我が国として初めてのアクションプランが決定され、その後、「適切な薬剤」を「必要な場合に限り」、「適切な量と期間」使用すること」を徹底するための国民運動を展開し、本格的な対策を講じてきたところです。

先のG20大阪サミットにおける首脳宣言にも、“AMRに対する世界的な取組を推進すべき”との各国首脳の意味が盛り込まれました。

既に厚生労働省は、医療関係者向けに「抗微生物薬適正使用の手引き」を作成しています。獣医師としても大変参考になるので、この手引きは必見です。抗菌薬は風邪など効かない感染症には使用せず、本当に必要な疾病に限って使うことなどが具体的に明記されています（図2）。

耐性菌が生まれる原因については、WHOのポスターの日本語訳が参考になりますので、こちらも必見です（図3）。

農林水産省でも、2016年から愛玩動物分野における全国的な薬剤耐性に関する動向調査とモニタリングを始めました。詳細な調査結果は動物医薬品検査所のホームページに掲載されていますが、2017年度の調査結果によると、動物種及び菌種で幅があるものの犬猫由来細菌の薬剤耐性率は、第3世代セファロスポリンが約25%～80%、フルオロキノロンが約30%～80%となっており、高率に耐性菌が検出されています。

このまま抗菌薬を多用すると、細菌感染症に使用できる薬剤がなくなり、AMRをもった細菌が生き残り、体内で増殖し、ヒトや動物、環境を通じて世間に広がります。現在、未来に使える抗菌薬を残そうと、世界各国でAMRへの対策に取り組んでいるところですが、我々獣医師もできることから行動に移していかなければならないと思います。

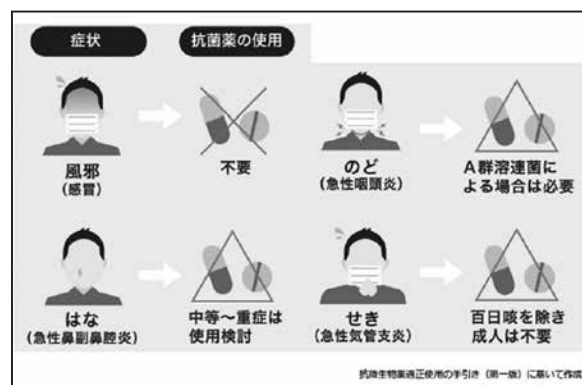


図2 抗微生物薬「使用の手引き」から



図3 耐性菌が生まれる原因

さて、本題のセミナーですが、3時間にもおよび、内容が多岐に渡っていたので、主なものを要点として以下にまとめました。“One Health”に関する国際会議の福岡宣言にもあるように、医師と獣医師は、人と動物の共通感染症と薬剤耐性対策等を含む概念に基づき行動し、実践する段階にきているのだと改めて考えさせられるセミナーでした。

4 国立国際医療研究センター病院からの報告と提言

AMR臨床リファレンスセンター 情報・教育支援室長の具先生と国際感染症センター国際感染症対策室 医長の忽那先生から、それぞれ「AMRの現状」と「抗菌薬適正使用」についての報告等です。



(1)「AMRの現状」(講師：具 芳明 医師)

- ✧ 薬剤耐性菌による死亡者数は、開発途上国を中心にがんを上回る可能性がある。
- ✧ AMR対策の基本は、薬剤耐性菌を作らず広げないこと。そのためには、医療機関、行政、地域住民が一体となり適正使用を推進することであり、医療の質の向上と地域連携を促進することが必要。
- ✧ 全国の抗菌薬販売量から推定すると、抗菌薬使用量は過去5年間で約10%減少してきているが、まだ目標値には達していない。



(2)「抗菌薬適正使用」(講師：忽那 賢志 医師)

- ✧ 2014年から国立国際医療研究センター病院では、広域抗菌薬とMRSA薬を使用する際は薬剤部に届出することにした。
- ✧ 院内にAST（抗菌薬適正使用支援チーム）を設置し、感染症治療の早期モニタリングとフィードバックなどを行い、抗菌薬の適正な使用の推進を行っている。
- ✧ 耐性菌を生じさせないためには、できる限り広域抗菌薬を使用せずスペクトラムの狭い抗菌薬を使用。原因菌の薬剤感受性が判明したら抗菌薬の狭域化を検討することが重要である。

- ✧ グラム染色などの塗抹検査や培養などの必要な微生物検査を行わずに抗菌薬を投与しないこと。
- ✧ 上気道炎については、大半はウイルス感染であり、抗菌薬治療は無効であるばかりでなく副作用などの有害性もあるので、上気道炎患者には原則的に抗菌薬を投与しないこと。



5. 県内医療機関からの報告と提言

県内でアウトブレイクが発生した2医療機関の感染管理認定看護師から発生事例の報告等です。

なお、様々な対策を講じた結果、現在は、ほぼアウトブレイクが収束したようです。

- ✧ 急性期医療を担う中核病院でアウトブレイクが発生したため、救急患者の受け入れを一部制限するなど地域の救急医療体制に大きな影響を及ぼした。
- ✧ アウトブレイクの収束化への近道は、膨大な情報量と豊富な対応経験を持っている国立感染症研究所等の専門機関へ早めに相談することが重要。
- ✧ 効果的だったと考えられる組織的な対応は、全棟一斉の入院患者全員のスクリーニング検査を実施したことや陽性患者を一箇所の病棟に隔離したこと、救命救急センターを一部制限したことである。
- ✧ 特に全スタッフで感染対策に取り組んだことや手指衛生・環境衛生の精度を上げたことが効果的だった。
- ✧ 重症の熱傷患者は、保菌した場合に血液・浸出液等から多くの菌が環境を汚染するので、特別な対策が必要である。

2019動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” に参加しました

事務局

10月5日（土曜日）午前10時から東京都世田谷区の駒沢オリンピック公園中央広場において、『2019動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”』が開催されました。開会式がメインステージで行われ、日本獣医師会の藏内勇夫会長が挨拶をしました。その後、森英介衆議院議員をはじめ多数のご来賓が祝辞を述べられ、藏内会長のもとへハリスホーク（タカ）が開会宣言書を届け、開会となりました。



開会式の様子

県獣医師会は東北各県・仙台市獣医師会と共に東北獣医師会連合会としてブースを出展し、小山田会長、盛田事務局長、事務員の伊東、渡邊が参加しました。東北各地の畜産物や名産品をPRするため、青森県はりんごジュース、岩手県は南部せんべい、宮城県は萩の月、秋田県はトマトジュースと子供限



ブース出展準備中

定で秋田犬の缶バッジ、山形県はでん六豆、福島県はミニトマト、仙台市はウェットティッシュ、そして各地の観光パンフレットを無償提供しました。



福島県の農協の方々と尾形常務

その後、福島県の農協職員が5名参加し、きゅうりやりんご、ハロウィーンでよく見かける模様のかぼちゃなど、採れたての野菜や果物を販売し、多く



片山さつき議員と記念写真



りんごジュースを持つ高木美智代議員

の方々が購入していました。獣医学系大学の学生ボランティアの皆さんも、声を張って呼び込みを頑張ってくれました。

また、本ブースへは片山さつき参議院議員と高木美智代衆議院議員、日本獣医師会の方々が応援に来てくださいました。

そして、今年で3年目となるいわて牛と秋田犬の“ぬいぐるみ”プレゼント企画『じゃんけん大会』が午前の部（11時）と午後の部（14時）の2回行われ、大勢の家族連れが参加しました。“ぬいぐるみ”はどちらも非売品ということもあり、みんな子供達は真剣に挑んでいました。あと少しというところまで勝ち進んだのに負けてしまい泣きじゃくる子もいました。見事勝ち抜いて“ぬいぐるみ”を貰えた子供達はとても喜んでおり、大いに盛り上がりしました。



午前の部は岩手県の小笠原常務と勝負



午後の部は岩手県の佐々木会長と勝負

その他ブースには、ご当地グルメのPRとして北海道獣医師会は焼きとうもろこしを、千葉県獣医師会は鶏めしなどを販売し、岐阜県獣医師会は飛騨牛

の試食を提供していました。また、一日獣医師体験や乗馬体験、マイクロチップの装着会、「感染症対策や狂犬病予防の大切さを知ろう」と題した講演、警察犬・災害救助犬のデモンストレーションなどが行われており、多種多様なアトラクションがありました。

この日は朝から暑くて真夏日となりましたが、天気に恵まれ、愛犬を連れた方や家族連れなど多くの方々が来場し楽しんでおりました。また、周辺スタジアムや体育館へ訪れていた方々もたくさん来てくださり、より多くの人へ青森をPR出来たのではないかと思います。



東北獣医師会連合会と学生ボランティア



毛芽腫により断脚を行ったウサギの1例



動物種:ウサギ 品種:雑種

性別:オス 年齢:6才 体重:3kg

●主訴および稟告

数か月前より右側後肢の踵部の腫瘤により跛行が生じ、最近では腫瘤が自壊し出血を認めたため当院に紹介。

●身体検査所見

食欲の低下

右後肢の跛行および腫瘤の自壊に伴う出血が認められた。

●血液検査所見

特筆すべき異常なし。

●X線検査所見

足根関節周囲の軟部組織増生を認める。

骨溶解を示唆する所見なし。

肺転移を示唆する所見なし。



患肢レントゲン画像
(側方および正面)

●麻酔・鎮痛プロトコル

術前にメロキシカム(0.2 mg/kg ; s.c.)メデトミジン(0.1 mg/kg ; i.m.)で鎮静後、撓側皮静脈の確保を試みたが成功しなかったため、耳静脈に血管確保を行った。ケタミン(5 mg/kg ; i.v.)で麻酔導入を行い、気道挿管を実施してイソフルランの吸入麻酔を開始し、術中は1.5~2.0%で麻酔維持を行った。さらに、断脚終了時には創面に0.5%ブピバカインを浸潤させた。術中の徐脈に対してはアトロピンが効かない可能性を考慮しエピネフリンを準備した。

●術式

大腿骨全長の近位1/3付近で全周に皮膚切開を加え、大腿筋群を超音波凝固装置を用いて切断した。続いて関節包を切開して円靭帯を切断し後肢を離断した。



▲ 摘出した患肢

抜糸時の創面
の様子



病理診断

上皮性の腫瘍が形成されており小葉構造を示す小型上皮性細胞で構成されている。個々の細胞は少量の好酸性細胞質と均一な類円形から紡錘形核を有し、悪性所見は認められない。膝窩リンパ節にも腫瘍性病変は認められない。

診断名:毛芽腫

●ノート

毛芽腫はウサギでは胸部皮膚に多発することが知られるが、今回の腫瘍は後肢に発生していた。過去の報告では毛芽腫の発生部位の中で後肢は約13%を占めるに過ぎず、術前には線維肉腫などその他の腫瘍の可能性も疑われた。初診時には細胞診を実施したが、診断に足る所見は得られなかった。このため悪性腫瘍の可能性を念頭に、可能な限りマージンを確保するため後肢の断脚を行った。その結果、術後経過も順調で術前に危惧された運動障害も認めず、三脚でも通常の生活を営むことができ、患者のQOLを向上させる結果が得られた。また、ウサギに麻酔を行う際には気道確保が難しく、そのリスクは高い。このため筆者は、ケタミンやメデトミジンなどの自発呼吸を止めにくい薬剤を使用して気道確保を行う。しかし過去には呼吸停止し死亡した例も経験しており、細心の注意を払う必要がある。現在では声門上器具も開発されており、その使用が最も安全であると言える。さらにウサギには生来アトロピン分解酵素であるアトロピナーゼを持つ個体がいるため、麻酔による徐脈に対してはグリコピロレートやアドレナリンが必要となることにも留意する必要がある。

北里大学小動物第2外科 前田賢一

頸部髄膜腫切除後 放射線治療を実施した犬の1例

北里大学附属動物病院 小動物診療センター

動物種：イヌ 品種：ウィペット
年齢：10歳 性別：避妊♀ 体重：9.02kg

＜当院への受診経緯＞

2018年末から左前肢の跛行が始まり、徐々に歩様が悪化。2019年4月に一般開業の動物病院にて頸部MRI検査を実施したところ、造影T1強調画像においてC6-T1間で責任病変と考えられる造影強調像が認められた（図1-1、1-2）。また病変により病変周辺の脊髄は右側に圧排されていた。

その後も症状は進み立位姿勢が保てなくなった。

2019年5月6日、腫瘍の外科的切除を目的として背側椎弓切除を行い、病変部にアプローチし、脊髄に癒着浸潤した腫瘍病変を可能な限り切除を実施。病理組織検査から髄膜腫の可能性が示唆された（図2）。病変は完全切除は困難と判断されたため可能な限り減容積を実施し閉創した。手術後、元気・食欲は安定したが、自力で体を起こすことは出来なかった。病変は部分切除であり、腫瘍の再発予防のため放射線治療を目的に当院に来院した。当院ではCT・MRI検査を実施した上で、放射線治療を計画し、外科的切除後16日経過した5月22日から放射線治療を開始した。

＜病理組織検査結果＞

外科手術時に切除した硬膜内髄外病変の組織切片より、本症例の腫瘍細胞の形態は髄膜腫に特異的な同心円状配列等は認められないものの、短紡錘形～紡錘形細胞の腫瘍であり（図2）、髄膜腫と矛盾しない所見であった。また追加の免疫染色の結果からも髄膜腫と矛盾しない結果が得られた。

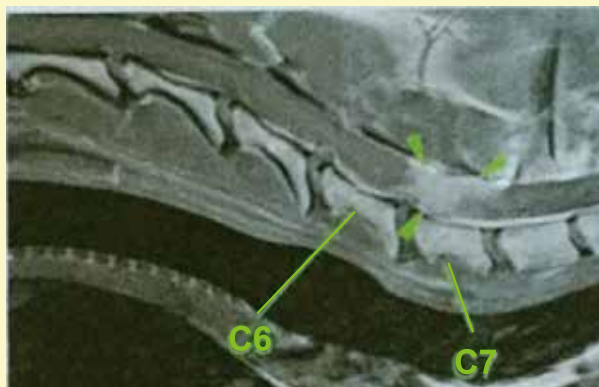


図1-1. 矢状断像 左寄り 造影T1強調画像



図1-2. 背断像 造影脂肪抑制T1強調画像

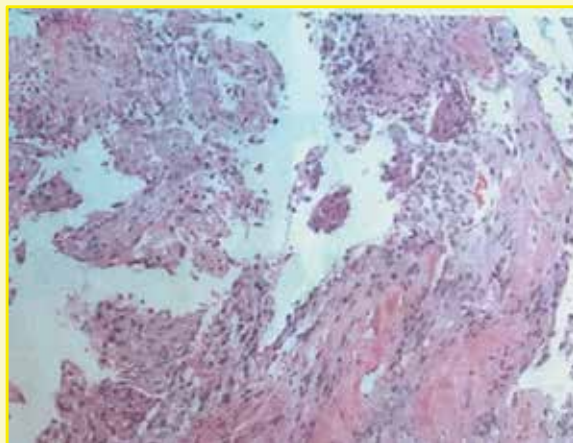
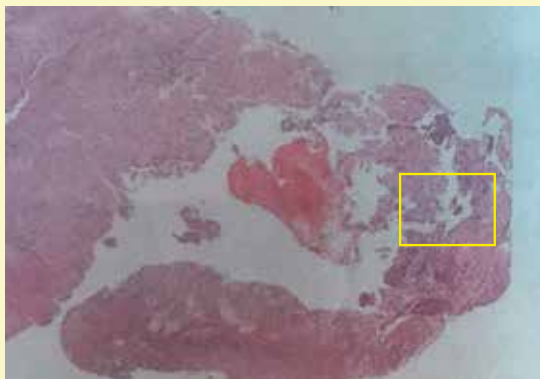


図2. 硬膜内髄外病変の組織像（左図黄色枠内の拡大像）

＜来院時の身体検査所見＞

体温 38.5℃、心拍数 136回/min、呼吸数 32回/min
食欲 (+)、飲水 (+)、起立 (-)

＜血液検査所見＞

ALT:334, ALP:1436, GGT:41.6 TB:0.15
肝胆嚢系パネル値の上昇が認められたが、その他項目に異常値は認められなかった

放射線治療計画

C T像に基づいた3次元治療計画装置により、病変が切除された領域から2cmのマージンを設定した照射野を作成した(図3)。標的組織へ1回線量を4 Gyとして、直交2門(1門目:3Gy、2門目:1 Gy)の治療を計画した。



図3. 3次元治療計画装置による吸収線量分布

＜画像検査・放射線治療(RT)経過＞

外科手術後一般状態が回復した(14日後)に当院へ来院しMRI・CT検査を実施。その2日後から本症例に対して高エネルギーX線治療装置(リニアック)による術後放射線照射を開始した。放射線照射は全身麻酔下にて、1回の照射量を4 Gy(1門目3 Gy、2門目1 Gy)を週に2回、計6回、総線量24 Gyの分割照射にて実施した。(放射線治療、画像検査の経過は下記参照)

検査 放射線治療	MRI・CT検査	RT1回目	RT2回目	RT3回目	RT4回目	RT5回目	RT6回目 MRI検査
実施日	5月20日(来院)	5月22日	5月24日	5月29日	5月31日	6月4日	6月6日
経過・状態	食欲 (+) 飲水 (+) 一般状態安定			短時間起立可能、 左前肢 ナックリング		起立可能、2～ 3歩歩行可能、 左前肢はナック リング改善 傾向	

治療実施前後のMRI像を図4-1、2に示す。腫瘍切除部分に腫瘍病変の再発像は認められなかった。



図4-1. 造影T1強調像
(左:放射線治療前、右:治療後)

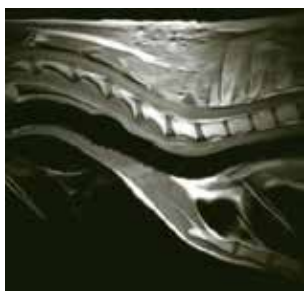


図4-2. T2強調像
(左:放射線治療前、右:治療後)

＜考察＞

本症例は来院時、術後2週間経過した段階で起立不能と左前肢のナックリングが認められたが、総線量24 Gyの放射線治療を行い、治療後に髄膜腫の再発は無く、起立可能で数歩の歩行が可能な状態まで回復した。

髄膜腫は犬で最も一般的な脊髄原発腫瘍であり、硬膜内髄外腫瘍に分類される。発生部位は頸髄領域に好発することが知られており、良性腫瘍ではあるが腫瘍が増殖するにつれて脊髄に対して圧迫性障害をもたらすと共に、疼痛を引き起こし、神経学的異常が徐々に進行する。頸髄における予後は髄膜腫の増殖性、発生部位及び治療方法により異なり、海外での研究では外科的切除のみの場合の平均生存期間15.8ヶ月、本症例のように外科的切除と放射線治療を行った場合の平均生存期間は15.6ヶ月と報告されている。外科的切除のみ行った症例群では晩年に腫瘍が再発し神経症状を示す症例があり、放射線治療を併行して行った場合には長期生存した個体において晩年に脊髄での遅延性の放射線障害が認められた例がある。遅延性放射線障害が認められた症例においては生存期間が非常に長く、腫瘍の再発もなく患者のQOLは保たれていた。外科的切除により腫瘍の完全切除が困難と考えられる症例においては放射線治療と併用することで再発の防止、生存期間の延長、罹患動物のQOLの向上が期待される。

本症例については退院後の予後は不明であるが、放射線治療による神経症状の緩和は患者本人のQOLだけでなく、飼い主にとっても麻痺により引き起こされるであろう褥瘡予防の体位変換、リハビリ及び介護といった負担を軽減すると考えられ、放射線治療は、本症例のように髄膜腫の再発防止だけでなく、患者・飼い主両者のQOLを保つことにつながり、共に生活し続けることを可能にする選択肢の一つと考えられる。

〔会員だより〕

台風をものともせず、 ゴルフコンペ開催!!

青森支部 成 田 憲 雄

令和元年9月23日（秋分の日）毎年開催している青森県獣医師ゴルフ愛好会ゴルフコンペが、台風襲来の子報の最中、八甲田ビュー CCで開催されました。

荒天の中、ヤル気満々で（腰がひけていた方も数名）集まった参加者の願いが通じたのか、プレー後半で雨に降られたものの、風もなく無事ホールアウトすることが出来ました。

会長の沼宮内先生が渓流釣りでの転倒による足首骨折で欠席されたことが残念ではありましたが、御年80歳の太平先生（十和田市）から中学2年生の渡辺琉稀君（当日のベストスコアを叩き出す！）まで和気あいあいとした雰囲気のコンペとなりました。

優勝者はメンバーとハンディキャップに恵まれた下田雅規さん（沢井薬品青森支店長）でした。

次回のコンペは令和2年9月23日（祭日）に八甲田ビュー CCで開催予定です。たくさんの方の御参加をお待ちしています。



優勝した下田雅規さん

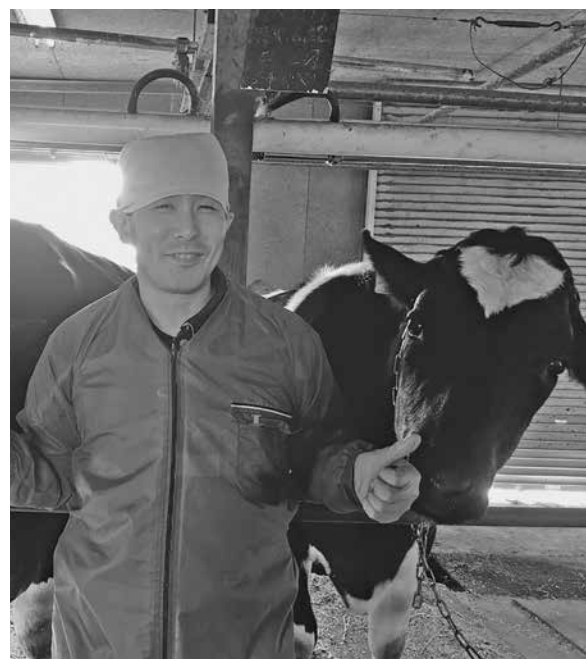
〔新会員紹介〕

新たに入会された 公務員獣医師を紹介します

上十三支部 安 本 守 宏

皆様はじめまして。9月1日付で青森県上北地域県民局地域農林水産部十和田家畜保健衛生所防疫課に配属されました安本守宏と申します。北海道函館市出身、北海道で獣医療に従事しつつ青森で働きたいと妻と話し、十分な合意を得てこの地へ来ました。

趣味は自然散策と武道で、武芸十八般を身に着けるために日々修行です。青森県での業務は初めてですが、武道で育む和の心をもって「青森・イズ・ナンバーワン」をモットーに、選ばれる青森の畜産のために真摯に励み続けますので、よろしくお願いいたします。



秋の動物ふれあいフェスティバル2019いやし・いやされ元気に長生き

青森支部（青森県動物愛護センター） 吉 田 繁 成

令和元年9月22日（日）23日（月祝）、青森県動物愛護センター（青森市大字宮田）で開催した動物ふれあいフェスティバルの様子を紹介します。この催しは、命あるものである動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めてもらうために、毎年、動物愛護週間（9月20日～26日）の期間中に、青森県、公益社団法人青森県獣医師会及び青森県動物愛護協会が共同で開催しているものです。今年は、台風17号の接近で2日目の乗馬体験やワンちゃんとの散歩体験など屋外の人気企画が中止となりましたが、青森市保健所、八戸市保健所の外、多くのボランティアの御協力をいただき無事終えることができました。

動物愛護センターで開催される動物ふれあいフェスティバルはゴールデンウィークにも開催しており、ここ数年は連日来場者2,000人を超える賑わいになっております。イベントが広く知られて定着し、楽しみにしている方も多いのだなと実感しました。

さて、フェスティバル1日目。天気は曇り。

10時開場にも関わらず30分以上前から入り口に並び始め長蛇の列になっていました。

新谷動物愛護センター所長の開園のコールで初日

が始まりました。

30分後には駐車場は満杯状態。場内も人気コーナーには順番待ちの列ができています。

まずは、動物愛護ポスター表彰式の紹介。

県内の小中学生に、ポスター作成の過程を通じて動物の飼養方法や動物愛護への理解を深めてもらうために動物愛護ポスターを作成してもらい、優秀作品には青森県知事賞、青森県獣医師会長賞、青森県動物愛護協会会長賞が贈られました。

青森県獣医師会長賞を受賞した青森市の工藤さくらさん、穂元汐音さんには小山田青森県獣医師会長から表彰状が授与されました。





小山田会長の挨拶

表彰式後には記念撮影が行われ、小山田青森県獣医師会長、木村青森県動物愛護協会長からご挨拶いただきました。皆さんいい笑顔。またポスターを作って応募して欲しいものです。

次に紹介するのは、Tタッチ体験教室。

「Tタッチ」？ 私も始めて耳にした言葉でしたが、パートナー（愛犬愛猫）とのスキンシップ（皮膚のすぐ下（筋肉より上の層）に働きかける。なでるといったらよいでしょう。）で「ストレスを軽減し、リラックスに導く」ケアです。

講師は、テリントントンTタッチプラクティショナー（実践者）油木真砂子さん。

「今日から始めよう愛犬と始めるTタッチ」の演題で、体験教室を行っていただきました。

10組（飼主と犬）の参加案内に、話だけでも聞きたいと希望者多数。急遽、席を用意したしだい。

参加したわんちゃんは、写真のとおりリラックスした様子。

飼主と一緒に参加したワンちゃんは、教室からさわやかな表情で出て行きました。

獣医師なりきり体験では、白衣を着て聴診器をあて心音を聞いてもらいます。

将来獣医師となり、我々の仲間になってくれると



動物愛護ポスター表彰者

思うと説明にも熱が上がります。

カメラのシャッターを切る親御さんたちは目じりが下がっているようでした。

そのほか、ふれあい体験（犬、ねこ、ウサギ、モルモット、馬、羊）、乗馬体験、ドッグダンス、愛犬簡易トリミング、わんちゃんのしつけ教室、わんちゃん免許証作り、愛玩鳥展示・工作コーナー、災害救助犬の紹介コーナーなど、内容盛りだくさん。

第1日目の来場者2,021人を数え終了しました。

9月23日は、台風接近。九州の被害が大きく報じられ、青森県の雨の確率は90%。22日のうちに屋外のイベントは中止することを決定し、プログラムの変更やホームページでの周知など大急ぎで準備。



その他、1日目の様子。



フェスティバル2日目

午前は雨のち曇り、午後は雨の一日。天候が悪い中、たくさんの方が来場しました。

まずは、午後に行われた「薬膳的フードの選び方講座」

昨日、Tタッチ体験教室の講師を勤められた油木真砂子氏に翌日は国際中医薬膳氏としてフードの選び方を薬膳的な観点でお話してもらいました。

「愛犬が毎日食べているものの中医学的効能を理解して、その時の気候や愛犬の体質に合うフードを選べるようになります。」といった内容です。

また、青森県立三本木農業高等学校「命の花プロジェクト」には今年も参加していただきました。

全国的に知られたこの「命の花プロジェクト」。「命の花」の鉢上げ、活動の体験発表と会場では大

きな関心をもたれていました。

そのほか、ふれあい体験（犬、ねこ、ウサギ、モルモット）、獣医師なりきり体験、オリジナル缶バッチ作り、愛玩鳥展示・工作コーナー、災害救助犬の紹介コーナーなど、屋内だけでも盛り上がりしました。

2日目は、雨の影響もありましたが479人の方が来場。

屋外イベントがなくとも大いに楽しんでもいただけたかと思います。

次の動物ふれあいフェスティバルは5月に予定しています。

青森県動物愛護センターの動物ふれあいフェスティバルにぜひご来場ください。



西北支部獣医師会動物愛護フェスティバルに参加して

西北支部 田 中 慎 一

令和元年10月27日（日）、西北支部獣医師会主催の動物愛護フェスティバルに参加してきました。このフェスティバルは、毎年動物愛護の啓発や狂犬病予防の推進を目的に地域の観光地やお祭り会場で行われる支部恒例のイベントです。

今年は深浦町の夕陽公園で開催された津軽深浦チャンチャンと深浦牛まつりのイベントとして参加しました。津軽深浦チャンチャンと深浦牛まつりは、県内はもとより県外も含め約9,000名が参加する人気のイベントです。

当日のスタッフは当支部獣医師会の会員、西北五動物愛護友の会、県獣医師会からの応援隊、県動物愛護センターのマスコット“フレンド君”の総勢16名で、9時30分から専用ブースを開設し、はじめにペーパー形式のクイズを行いました。

次はイベント会場ステージ上での○×クイズです。クイズでは、狂犬病の予防注射のことや犬や猫のからだの特徴などペットに関する問題や深浦町のご当地問題が出題されました。今年は特にペットに関するクイズの正解率が高く、なかなか順位が決定しませんでした。

最後はフレンド君との対戦によるジャンケン大会です。○×クイズ、ジャンケン大会ともにたくさんの方々の参加により大盛況でした。また、それぞれ勝ち残った上位の方々に景品が贈呈されました。

約3時間のフェスティバルでしたが、「動物好きの方とのふれあい」や普段の業務とは違う「動物愛護活動」など新鮮な思いで過ごし、貴重な経験ができました。



○×クイズの様子



フレンド君とのジャンケン大会

令和元年度犬猫慰霊祭

西北支部 事務局 小山内

9月8日（日）、つがる市木造斎場内犬猫墓石前において、ご来賓、支部関係者及び一般市民47名を含む計57名が参列し、30回目の慰霊祭を執り行ないました。

参列した方々が写真やペットフード、お花を手向け、つがる市森田町「浄業寺」佐藤住職による読経の中、それぞれの思いを胸に焼香し、手を合わせて祈り、亡きペットを偲んでおりました。

犬猫墓石は平成5年9月、西北五動物愛護友の会会員他有志による募金で建立されました。

周りを田んぼに囲まれた霊園の一角にあり、西北五動物愛護友の会の方が草刈りとお墓の掃除、納骨

などの管理をしております。

きれいに掃除された墓石で、亡きペットのご供養ができて、飼主さんはとても幸せな気持ちになったのではないのでしょうか。

何より参列した方がうれしそうに帰って行き、ほとんどの方が来年の案内を希望しているからです。

毎回ご尽力くださっている友の会の方々に心より感謝申し上げます。

当日は、季節外れの猛暑の中、日射しを遮るテントの中を時折吹くわずかな風に少し癒やされながら、令和最初の慰霊祭を無事終えることができました。



犬猫墓石



ご来賓及び参列者



佐藤住職

上十三支部獣医師会 動物慰霊祭が開催されました

上十三支部 事務局 柳沢

上十三支部獣医師会では、平成27年度から毎年、獣医師として動物慰霊祭を行っています。

今年度は、9月18日（水）午前11時から十和田市曹洞宗観音寺において、しめやかに営まれました。

小山田会長、吉田副会長をはじめ、支部会員・関係者16名が副住職の読経の中、失われた諸動物の命に対して深く頭を垂れ、一人一人が焼香し供養を行いました。

供養終了後、小山田会長から

「平成30年度、保健所で処分された犬と猫は合計902頭で、尊い命が失われている。県では、令和5年度までに処分頭数75%減を目標に定め、命の大切さや命の重みについて啓発活動を行っている。我々、現場の獣医師は、県の方針に共鳴し不幸な動物を増やさないう不妊・去勢によって貢献していきたい。それが、最大の動物愛護活動だと認識している。

また、令和元年8月に動物愛護管理法の一部が改正され、適正飼養が困難な場合の繁殖防止義務化、

動物虐待に対する罰則の引き上げ、マイクロチップの装着義務づけなどが強化された。今後、飼養者に対して積極的に法の趣旨を啓発・普及していきたい。

さらに、昨年9月に岐阜県で発生した豚コレラについては、感染が拡大して43事例まで達している。約14万頭の豚が処分され尊い生命が失われている。今後、ワクチン使用についての議論もあると考えるが、どのような状況においても本病撲滅のため協力していきたい。」

との挨拶がありました。

なお、会長から今後の動物慰霊祭について、支部獣医師会員のみならず、広く市民の方々が参加できる体制作りが必要との提案がなされました。

全ての人が「動物は命あるもの」であることを認識し、人と動物が共に生きていける社会を目指す獣医師の有り様について、再認識させられた一日でした。



令和元年度犬猫供養祭

下北支部 事務局 江刺家

去る9月25日（水）台風一過の秋空の下、むつ市円通寺に於いて、犬猫供養祭を開催しました。

当日は、支部関係者、県獣医師会、県動物愛護センター、むつ保健所、むつ家畜保健衛生所、飼い主の方々およびご住職合わせ17名での開催となりました。遠方よりご出席くださった県動物愛護センター吉田総括主幹、県獣医師会の盛田事務局長には支部一同、心より感謝しております。

ある飼い主さんは愛犬が亡くなり5年経っても心の整理がつかず納骨できずにいたところ、ご友人からこの供養祭のことを聞き、お骨を持って参加してくださいました。

終了後、「丁寧に供養していただき、ようやく気持ちに踏ん切りができました。これで安心して送り出してあげることができます。ありがとうございます」



した。」と、ほっとした表情でおっしゃってくださいました。

この供養祭が少しでも飼い主さんの気持ちを整理する手助けになったこと、また、その仕事に携われたことを嬉しく思います。

これからも広く色々な方に気軽に参加していただけるような供養祭を開催していけたらと思います。



令和元年度産業動物・飼養管理等合同研修会

下北支部 事務局 江刺家

11月27日（水）下北文化会館において、むつ地区家畜衛生推進協議会と共催で、産業動物・飼養管理等合同研修会を開催し、獣医師・管内生産者・市町村・農協団体・関係機関・製薬会社・支部関係者等合わせ、出席者は57名となりました。

今年度の研修会は、牛の飼養管理上、最も重要な「子牛の疾病予防対策」と現在、全国的に発生が増加傾向にある届出伝染病の「牛白血病（EBL）」等をテーマとし、次の3名の方に講師をお願いしました。

相馬先生からは、今年度の全国家畜保健衛生所業績発表会において、青森県代表として発表されたつがる地域で取り組んだ牛白血病清浄化対策についてご講演いただきました。

① 松田 敬一先生（宮城県農業共済組合）

「子牛の疾病予防対策について」

② 相馬 亜耶先生（つがる家畜保健衛生所）

「地域で取り組んだ牛白血病清浄化への3ステップ」

③ 木村 揚先生（むつ家畜保健衛生所）

「牛白血病とヨーネ病の防疫対策について」

質疑応答では、獣医師や生産者の皆様から熱心な質問や意見が出され、とても有意義な研修会となりました。

生産者の方々におかれましては、今回の研修会で学んだことが「病気をしない、伝染病にかからない」といった健康で、よりよい牛づくり・改良の参考になればと思います。

今後も、生産者の方々の飼養管理技術の向上・繁殖経営のより安定的な発展等のために、少しでも役立つような研修会を計画していきたいと思っています。



◎会員の動向

正会員 (人)

平成30 年度末	元年度(31年度)		令和元年 12月20日 現在
	入会	退会	
441	15	23	433

支部別 (人)

青森	弘前	三八	西北	上十三	下北	計
62	34	122	27	164	24	433
8	3	5	2	8	3	29

(下段は名誉会員数で内数)

賛助会員

会員数	1
名称	株式会社クレディセゾン

逝去会員

氏名	支部	逝去年月日	享年
加川 貴章	下北	令和元年9月30日	40歳

◎事務日誌

1 事務関係

- (1) 令和元年度中間監査
期日：令和元年11月12日（火）
場所：青森市 青森県獣医師会館
内容：平成31年4月1日～令和元年9月30日までの決算等について
参集：監事、会長、センター次長、税理士法人 所長、事務局長、事務局
- (2) 令和元年度年末調整説明会
期日：令和元年11月13日（水）
場所：青森市 市民ホール
内容：令和元年年末調整について
出席：事務局
- (3) 令和元年度第5回理事会
期日：令和元年12月6日（金）
場所：青森市 ホテル南部屋・海扇閣
内容：令和元年度主要事業進捗状況、狂犬病予防注射料金改正等、その他報告事項
参集：会長ほか役員、事務局長、事務局

2 狂犬病予防・動物愛護関係

- (1) 西北支部動物愛護フェスティバル
期日：令和元年10月27日（日）
場所：深浦町 夕陽公園

出席：西北支部長、西北支部会員、事務局長
事務局

- (2) 令和元年度狂犬病予防注射打合せ会議
期日：令和元年12月11日（水）
場所：つがる市 柏ロマン荘
参集：西北地区市町村担当者、西北支部長、西北支部会員、事務局長
- (3) 令和元年度下北地域狂犬病予防注射関係機関会議
期日：令和元年12月13日（金）
場所：むつ市 プラザホテルむつ
参集：下北地区市町村担当者、下北支部長、下北支部会員、事務局長
- (4) 令和元年度青森県動物愛護推進協議会
期日：令和元年12月18日（水）
場所：青森市 県庁東棟会議室
出席：会長

3 食鳥検査事業関係

- (1) 令和元年度全国食鳥指定検査機関情報連絡会議
期日：令和元年10月23日（水）
場所：京都市 ANAクラウンプラザホテル京都
出席：会長、事務局長、次長他
- (2) 令和2年度採用予定者面接試験
期日：令和元年11月21日（木）
場所：十和田市 食鳥検査センター
参集：応募者、所長、次長、事務局長他
- (3) 令和元年度第3回特定事業運営委員会
期日：令和元年12月2日（月）
場所：青森市 青森県獣医師会館
出席：特定事業運営委員、会長、所長、次長、事務局長、事務局
- (4) 食鳥検査事業推進会議
期日：令和元年12月6日（金）
場所：青森市 ホテル南部屋・海扇閣
出席：役員、特定事業運営委員、会長、各支部事務局、所長、次長、室長ほか、事務局長、事務局

4 部会開催関係

- (1) 会報部会
期日：令和元年11月8日（金）、29日（金）
12月9日（月）
場所：青森市 青森県獣医師会館
内容：令和2年1月発行第181号会報編集
参集：会報部会員、事務局長、事務局

5 東北獣医師会連合会関係

- (1) 東北地区獣医師会長会議

期日：令和元年10月4日（金）
場所：東京都千代田区 ホテルルポール麹町
出席：会長、事務局長

(2) 令和元年度東北地区獣医師大会

期日：令和元年10月10日（木）
場所：郡山市 郡山ビューホテルアネックス
出席：会長、副会長、事務局長他

(3) 令和元年度獣医学術東北地区学会（三学会）

期日：令和元年10月11日（金）
場所：郡山市 郡山ビューホテルアネックス
出席：発表者、幹事、会長、副会長、事務局長他

(4) 令和元年度北海道・東北地区獣医師会事務局会議

期日：令和元年10月31日（木）
場所：盛岡市 ホテル大観
出席：事務局長、事務局

6 日本獣医師会関係

(1) 令和元年度全国獣医師会会長会議

期日：令和元年10月4日（金）
場所：東京都千代田区 ホテルルポール麹町
出席：会長、事務局長

(2) 2019動物感謝デー in Japan

期日：令和元年10月5日（土）
場所：東京都世田谷区 駒沢オリンピック公園
出席：会長、事務局長、事務局

(3) 日本医師会・日本獣医師会連携講演会

期日：令和元年11月25日（月）
場所：東京都文京区 日本医師会館
出席：事務局長

(4) 令和元年度日本獣医師会中間監査及び第5回理事会

期日：令和元年12月16日（月）
場所：東京都港区 日本獣医師会館
出席：会長

7 その他

(1) 有限会社小比類巻家畜診療サービス創立50周年記念祝賀会

期日：令和元年10月12日（土）
場所：三沢市 きざん三沢
出席：会長

(2) AMR対策臨床セミナー in 青森

期日：令和元年10月12日（土）
場所：青森市 ラ・プラス青い森
出席：事務局長

(3) 令和元年度青森県野生獣衛生対策連絡協議会

期日：令和元年10月15日（火）
場所：八戸市 きざん八戸
出席：会長

(4) 北里大学獣医学科セミナー

期日：令和元年10月16日（水）
場所：十和田市 北里大学獣医学科
出席：事務局長

(5) 野生獣の衛生対策推進講習会

期日：令和元年10月25日（金）
場所：八戸市 きざん八戸
出席：会長、事務局長

(6) ペット防災セミナー

期日：令和元年11月14日（木）
場所：山形市 山形国際ホテル
出席：事務局長

(7) 令和元年度新興・再興感染症対策特別講演会

期日：令和元年12月7日（土）
場所：青森市 青森県立保健大学
出席：事務局長

(8) 日本家畜衛生学会・家畜衛生フォーラム2019

期日：令和元年12月20日（金）
場所：東京都中央区 MeijiSeika ファルマ
出席：事務局長

【支部状況】

◎青森支部獣医師会

大動物講習会

日時：令和元年11月5日（火）
場所：青森市 ラ・プラス青い森

◎三八支部獣医師会

小動物講習会

日時：令和元年11月10日（日）
場所：八戸市 きざん八戸

大動物講習会

日時：令和元年12月3日（火）
場所：八戸市 きざん八戸

◎上十三支部獣医師会

畜産講習会

日時：令和元年11月20日（水）
場所：十和田市 サン・ロイヤルとわだ

小動物講習会

日時：令和元年11月24日（日）
場所：十和田市 十和田倶楽部

食肉衛生技術研修会

日時：令和元年12月7日（土）
場所：十和田市 十和田食肉衛生検査所

◎下北支部獣医師会

産業動物・飼養管理等合同研修会

日時：令和元年11月27日（水）
場所：むつ市 下北文化会館

令和最初の新年を迎えました。昨年は新天皇即位の関係で休日が増え、様々な厳かな行事がとり行われました。日本人として何か引き締まるものを感じた方もおられたのではないのでしょうか？

前回も気象異常について若干触れましたが、度重なる台風の来襲で多数の犠牲者が生じ、依然として

生活復旧の途上の方々もおられます。1日でも早く「日常」を取り戻して欲しいものです。

年賀の挨拶的になってしまいますが、今年は会員皆様とご家族様の平穏な1年が過ごせるように編集委員一同お祈り申し上げます。（AN）

～令和元年度青森県家畜保健衛生業績発表会開催のお知らせ～

令和2年1月28日（火曜日）午前10時から県民福祉プラザ（青森市中央三丁目20-30）で令和元年度青森県家畜保健衛生業績発表会が開催されます。本発表会は県内家畜保健衛生所の日常業務に関連した事業、調査、研究等の業績について発表討論を行い、畜産の現況に即した家畜衛生の改善向上に資するもので、現場の獣医師や農協、市町村の方々にも参考になるものがあると思われます。今回は発表演題の取りまとめが本誌1月号の掲載に間に合わないため、日時と場所のみのご紹介といたします。

興味のある方は、地元の家畜保健衛生所にお問い合わせください。また、当日のご参加には事前の参加申し込みは必要ありませんので、お気軽に足をお運びください。

原 稿 募 集

令和2年4月1日発行予定の会報第182号の原稿を募集いたします。
会員各位の投稿のほか、各支部獣医師会だよりの原稿もお願いいたします。
原稿は、投稿規程を参照して作成し、次の方法で青森県獣医師会にお送りください。
締切り日は2月28日です。期日までにお願いいたします。

〔原稿の提出方法〕

原稿は原則としてMicrosoft Wordで作成し、ファイルは電子メールに添付して本会事務局に送信してください。なお、原稿ファイルがWord以外で作成された場合は、使用したソフトをお知らせください。

手書きの原稿や、大容量（20MB以上）の写真を含む原稿ファイルはCD-R等に記録し、本会事務局に郵送してください。

本 会 事 務 局 住 所：〒030-0813 青森市松原二丁目8の2

電子メールアドレス：ao-vet@smile.ocn.ne.jp

公益社団法人日本獣医師会 獣医師福祉共済事業

獣医師の皆さまとご家族に 大きな安心を!!



獣医師の皆さまを取り巻く様々なリスクの備えに

「獣医師会のほけん」

団体割引20% 病気やケガ・介護に備える

所得補償保険

団体長期障害
所得補償保険

新・団体^{*1}
医療保険

介護保険^{*2}

傷害総合保険

動物病院従業員補償
傷害総合保険^{*3}

^{*1} 医療保険基本特約、疾病保険特約、傷害保険特約、がん保険特約セット団体総合保険

^{*2} 介護一時金支払特約セット団体総合保険

^{*3} 就業中のみ危険補償特約セット傷害総合保険

動物病院の「什器・備品・医療機器」の損害に備える

動物病院「什器・備品・医療機器」総合補償
(テナント総合保険)

保険契約者 公益社団法人 日本獣医師会

このご案内は概要です。詳しい内容につきましてはパンフレットをご請求いただき、取扱代理店または損保ジャパン日本興亜営業店までお問い合わせください。

問い合わせ先

幹事代理店 株式会社安田システムサービス

〒163-1529 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー29F
TEL:03(3340)6497 FAX:03(3340)5700
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝休)

引受保険会社

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

団体・公務開発部第二課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL:03-3349-5402 FAX:03-6388-0161
受付時間 9:00~17:00(土・日・祝休)

損害保険ジャパン日本興亜株式会社は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損害保険ジャパン株式会社」になります。

日本獣医師会福祉共済事業各保険の資料は下記幹事代理店までご請求ください。
なお、携帯電話からもご請求いただけます。
下のQRコードからアクセスしてください。



SJNK19-10094(2019.11.28)

YES! we do

動物のこと考えてます。



私達は動物用医薬品の供給により

動物・ペットの様々な病気を癒すサポートをし、

さらにそれが人々の心の癒しとなることを願います!

株式会社 アグロ ジャパン

本社・〒959-0914 新潟県新潟市中央区紫竹山5丁目9番13号

青森営業部 TEL・0176-23-7231 FAX・0176-24-0290

—— 今までもこれからも「生命の未来」のために尽くしたい ——

獣医師・畜産用医薬品, ワクチン類, 器具機材, プレミックス製造販売総合商社



本 社 岩手県花巻市卸町66番地 0198 (26) 4151

◆ 営業所一覧 ◆

花巻営業所	0198 (26) 4700	山形営業所	023 (633) 5333
大船渡営業所	0192 (26) 4740	酒田出張所	0234 (26) 4666
大館営業所	0186 (43) 1609	福島営業所	024 (553) 6678
横手営業所	0182 (33) 5404	新潟駐在所	0254 (23) 7567
青森営業所	017 (738) 1224	旭川営業所	0166 (46) 0270
八戸営業所	0178 (34) 2284	札幌営業所	011 (813) 1300
古川営業所	0229 (26) 4567	帯広営業所	0155 (25) 8661
		釧路出張所	0154 (31) 5575
プレミックス工場	0198 (26) 4726	家畜衛生食品検査センター	0198 (26) 5375

NEW
BRAND,
NEW
START

km^b

確かな技術と大きな責任。
すべては信頼のために。

KMバイオロジクス株式会社は、2018年7月に
「動物用ワクチン」「人体用ワクチン」「血漿分画製剤」等の事業を
一般財団法人 化学及血清療法研究所から承継いたします。
KMバイオロジクスは、引き続き動物用医薬品の開発・供給を行い、
動物の健康と、安全な食品の供給に貢献してまいります。

KMバイオロジクス株式会社



動物の健康はヒトの健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康を守ります。

●安全な畜水産物の生産をサポートし、食の安全・安心と自給率の向上に貢献できる会社を目指します。

MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274

北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13

TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

<http://www.mpagro.co.jp/>

東北営業部 青森支店 TEL 0178-20-2011

FAX 0120-446902

事業所一覧

東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス

札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東

大阪第一・大阪第二・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根

高松・徳島・松山・宇和島

福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋

AHSC(アニマルヘルスサポートセンター)

MPアグロ

札幌・帯広・盛岡・関東・御津・各物流センター

動物の価値を高めること。総合動物薬企業「セノアック」の永遠のテーマです。



Bovine

乳牛・肉牛用製品

動物用医薬品 セレン配合総合ミネラル固形塩

鉍塩セレンクス®60TZ

動物用医薬品 糖精剤及び血液代用剤

酢酸リンゲル-V®注射液

動物用医薬品 内外寄生虫駆除剤

アイボメック®トピカル

動物用医薬品 エプリノメクチン製剤

エプリネックス®トピカル

動物用医薬品 **要指示** **指定** 泌乳期用乳房注入剤

セファメジン-Z

動物用医薬品 **要指示** **指定** ジクラズリル製剤

ベコクサン® **NEW**

動物用医薬品 **要指示** **指定**

牛用非ステロイド系消炎薬製剤

メタカム®2%注射液 **NEW**

動物用医薬品 **要指示** **指定**

塩酸クレブデンチオール製剤

ブラニパート® **NEW**

動物用医薬品 **要指示** **向** **指定** プロテゾラム製剤

メデランチル® **NEW**

動物用医薬品 メンブトン製剤

動物用エンドコール®注 **NEW**



Dog & Cat

小動物用製品

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定** ホアブロー性皮膚炎減感作療法薬

アレルミューン®HDM

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定** 犬猫急性期用抗炎症剤

ブレンダ-Z

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定** 犬用ノミ・マダニ駆除剤

ネクスガードスペクトラ®

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定** 猫用ノミ駆除・寄生予防・マダニ駆除剤

ブロードライン®

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定** 動物ワクチングループ

ピュアバックス®RCP

ピュアバックス®RCP-FeLV

ピュアバックス®RCPCh-FeLV

動物用医薬品 動物用製剤検査キット

SNAP®シリーズ

ハートワームRT-FeLV/FIVコンボ

ジアルシア・バルボ・cPL・proBNP

動物用医薬品 犬用及び猫用

メディダーム

オーツグループ

オーツシャンプー®エクストラ (動物用シャンプー)

オーツイヤークリーナー® (動物用イヤークリーナー)

オーツダーマルカーム / スポットフォーム® (動物用ディーツーク)

犬用デンタルガム

オーラベツト

犬用食物アレルギー療法食

ピュアプロテイン®



Swine

養豚用製品

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定**

豚サージウイルス (2型) 感染症不活化ワクチン

(油性アジュバント加懸濁用液)

サーコバック®

動物用医薬品 **創** **指定** 解熱鎮痛消炎剤

ピレキシシン®10%

動物用医薬品 **創** **指定** グルタラール消毒剤

グルタプラス®

[A飼料] 豚用生菌混合飼料

インテクトY®

[A飼料] アルミノ珪酸ナトリウム・カルシウム

マイコ-AD A-Z

[A飼料] 豚用混合飼料

モイストケア

[A飼料] 有機ミネラル飼料添加物

アペイラ SOW®

豚精液希釈保存液用粉末

ゼノロング®R

豚精液希釈保存材

MT スパーダ P



Avian

養鶏用製品

動物用医薬品 **要指示** **創** **生物** **指定**

鶏伝染性気管支炎生ワクチン

IB 生ワクチン

「BI」H120 ネオ **NEW**

動物用医薬品 **要指示** **創** **生物** **指定** ワクチングループ

アビ VG/GA®ネオ **NEW**

動物用医薬品 **要指示** **創** **指定** ワクチングループ

ネモバック®

ビニューバックス®SE

Mg 生ワクチン (NBI)

MS 生ワクチン (NBI)

動物用医薬品 ワクモ専用殺虫剤

ゴッシュ®

[A飼料] 鶏用混合飼料

アビヘルス RU

[A飼料] 天然枯草菌混合飼料

クロスタットグループ

水質改善発泡タブレット

ネオスタブ®

強力洗浄剤

シフト™

©登録商標



日本全業工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1



日本全業工業株式会社
青森県十和田市東4番町3-25

青森コミュニケーションオフィス
TEL:0176(21)5170



革新的な“フルクラウド”セキュリティ

MYEP

MR ENDPOINT PROTECTION

Powered by
WEBROOT SecureAnywhere

テクノロから新しいセキュリティソリューションのご提案。
高速・ハイレベルセキュリティ・低価格の新しいクライアントセキュリティです。

“再発明”された 次世代アンチマルウェアソリューション

高速! 数秒でインストール・数分のフルスキャン

PCのスロウダウンや生産性低下の撲滅

既知のみでなく未知のマルウェアに対する完全な防御

サーバー投資のいらぬクラウド型管理ポータル

お問い合わせは

株式会社 テクノル お近くの支店・営業所へ **Technol**

本 社	青森県八戸市廿三日町 2 YS ビル 3F TEL 0178-47-8311 FAX 0178-47-8421
青森支店	青森県青森市堤町 1-6-7 TEL 017-735-5611 FAX 017-735-5615
八戸支店	青森県八戸市北白山台 2-2-14 TEL 0178-27-9611 FAX 0178-27-6006
弘前支店	青森県弘前市神田 2-2-1 TEL 0172-32-5541 FAX 0172-32-5595
十和田支店	青森県十和田市東一番町 4-37 TEL 0176-25-2991 FAX 0176-25-2993
五所川原営業所	青森県五所川原市一ツ谷 536-26 TEL 0173-35-5911 FAX 0173-35-0863
むつ営業所	青森県むつ市新町 11-14 TEL 0175-22-7773 FAX 0175-22-4101
六ヶ所営業所	青森県上北郡六ヶ所村大字尾駁字野附 1-74 TEL 0175-72-3771 FAX 0175-72-3773
大間出張所	青森県下北郡大間町大字大間字七郎平 12-172 TEL 0175-32-1633 FAX 0175-37-2338
仙台営業所	宮城県仙台市若林区卸町 3-1-21 (吉田産業仙台支店内 3F) TEL 022-355-4122 FAX 022-232-6130
ドキュメント サービスセンター	青森県八戸市廿三日町 2 YS ビル 1F TEL 0178-47-8162 FAX 0178-47-8411
MBE 青森店	青森県青森市堤町 1-6-7 TEL 017-732-1552 FAX 017-732-1553



動物を守り、人を支える

 **KYOTOBIKEN**

株式会社微生物化学研究所（京都微研）
〒611-0041 京都府宇治市横島町二十四、16番地
電話 0774-22-4519（営業）Fax 0774-22-4568（営業）
<https://www.kyotobiken.co.jp/>



獣医師の誓い—95年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

1. 動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。
2. ヒューマン・アニマル・ボンド 人と動物の絆を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。
3. 良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。
4. 獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。
5. 相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。

(1995年6月27日、社団法人日本獣医師会・第52回通常総会において採択)

令和2年1月1日

発行所 青森市松原二丁目8の2

公益社団法人 青森県獣医師会

T E L 017(722)5989

F A X 017(722)6010

Email ao-vet@smile.ocn.ne.jp

印刷所 青森市幸畑松元62-3

青森コロニー印刷

T E L 017(738)2021

F A X 017(738)6753